

“たくましい安曇野の子ども”を目指す
安曇野市立小・中学校の将来構想
(案)

安曇野市教育委員会

令和 3 年 3 月

はじめに

安曇野市は、平成 17 年 10 月 1 日に旧 5 町村が合併して誕生しました。これに伴い、旧町村立小・中学校は、そのまま安曇野市立小・中学校へと移管され、安曇野市教育委員会は、現在まで 10 校の小学校と 7 校の中学校を所管し義務教育を担ってきました。

この 15 年間の安曇野市の人口の推移や少子化の状況に対して、今後の活力ある学校はどうあったらよいかについて検討する必要性が高まり、令和元年 11 月、教育委員会内に「教育委員協議会」を設置しました。これまで、月 1 回のペースで令和 3 年 1 月まで計 15 回の協議を重ねるとともに、各種団体などと意見交換の場を設け、様々なご意見やご提言をいただき、「たくましい安曇野の子ども」を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想（案）」としてまとめました。

今後、安曇野市立小・中学校の学びの環境をより活力あるものにしていくために、夢と期待を込めたこの将来構想により、具体的なアクションプランの策定につなげていきたいと思えます。

安曇野市立小・中学校は誕生から 16 年目



目次

1	安曇野教育を支えてきたもの	… 1
	(1) 教育尊重の精神や気風	… 1
	(2) 求め続ける教師	… 1
2	安曇野市内の教育施設	… 2
	(1) 就学前の教育・保育施設	… 2
	(2) 小・中学校、高等学校	… 2
3	子どもを取り巻く環境の変化と課題	… 3
	(1) 社会的環境の変化に伴う子どもの生活や学校の課題	… 3
	(2) 時代の変化に対応した教育環境整備	… 3
4	安曇野市の「教育の方針」	… 5
	(1) 安曇野市教育大綱	… 5
	(2) 安曇野市の目指す子ども像	… 5
	(3) 学校教育グランドデザイン	… 6
5	安曇野市の人口と児童生徒数	… 7
	(1) 安曇野市の人口の推移	… 7
	(2) 安曇野市の児童生徒数の推移（合併時から現在まで）	… 7
	(3) 今後の小・中学校の児童生徒数の予測と特徴	… 8
	(4) 地域ごとにみた学校別児童生徒数の予測	… 9
6	安曇野市の未来を担う世代の状況	… 11
	(1) 安曇野市の年齢別人口（人口ピラミッド）からみた課題	… 11
	(2) 中学校卒業者の進路状況	… 12
	(3) 安曇野市周辺地域の少子化の状況	… 14
	(4) 旧 11 通学区・旧 12 通学区の中学校卒業生数の予測と課題	… 14
7	市民が期待する小・中学校の姿と市が目指す活力ある学校の姿	… 15
	(1) 「市民アンケート調査」等からみた期待する小・中学校	… 15
	(2) 市が目指す活力ある学校の姿—5つの学校像	… 15
8	安曇野市の教育・学校の将来像	… 16
9	「活力ある学校づくり」を目指した具体的方策	… 17
	(1) コミュニティスクールの活性化	… 17
	(2) 新たな学校運営協議会の主な役割と協議会運営のポイント	… 19
	(3) 新しいコミュニティ・スクールへの移行で変わること・期待されること	… 20
	(4) 小中一貫教育の導入と期待されること	… 21
	(5) 安曇野市の目指す小中一貫教育の枠組み	… 21
	(6) 安曇野市小中一貫教育に向けた市指定校研究	… 22
	(7) ふるさと安曇野市の自然・文化・歴史等を学ぶ「安曇野の時間」（仮称）の創設	… 23
10	これからの安曇野市の教育・学校のあり方について（まとめ）	… 24
	【資料編】用語解説など・教育委員協議会名簿	… 25

1 安曇野教育を支えてきたもの

(1) 教育尊重の精神や気風

安曇野における教育の源流を遡ると、江戸時代末期この地に、全国的にみても数多くの寺子屋や特色ある私塾が開設されたことから始まります。その後、明治5年8月に学制が公布されると、今の小・中学校のルーツに当たる「学校」が次々に誕生し、その就学率は群を抜いて高かったことが知られています。そして、志を高くもって学びに励んだ人々の中から、日本や世界に誇る様々な分野の先覚者が多数輩出しています。

安曇野教育を支えてきたもの —教育尊重の精神や気風—

高い志を抱いて活躍した先人たち(敬称略)

- ・藤森寿平：南安曇郡の近代教育の先駆者
- ・松沢求策：自由民権運動のリーダー
- ・井口喜源治：研成義塾の創設者
- ・荻原碌山：彫刻家
- ・白井吉見：作家・文芸評論家・教育者
- ・田淵行男：昆虫学者・山岳写真家
- ・青木祥二郎：能楽師
- ・高橋節郎：漆芸家・文化勲章受章者
- ・飯沼正明：神風号パイロット
- ・熊井 啓：社会派映画監督 ほか多数



無事於心無心於事
物となつて考へ物となつて行ふ

旧高家小学校跡に立つ
西田幾多郎の詩碑
—市有形文化財—

また、この地域は、“教育尊重の精神や気風・教育熱”が極めて高く、例えば、昭和15年に旧高家小学校跡に「西田幾多郎詩碑」※1（市の有形文化財）が建てられ、現在も地元の方々の手によって大切に守られて

いるなど、教育・文化・芸術に関する伝統や行事が各地で継承されています。

(2) 求め続ける教師

安曇野教育を支えてきたもの —求め続ける教師—

安曇野ゆかりの先達から学ぶ伝統

- ・南安曇教育会初代会長岡村千馬太先生
- ・教育哲学者木村素衛先生
- ・哲学者務台理作先生 ほか

教育力を高める研修と調査研究活動

地域や保護者とともに取り組む活動

- ・安曇野の子どもを語る会



安曇野教育の拠点
南安曇教育文化会館

安曇野の学校に奉職する教師の多くは、「教育の真なるもの、教師のあるべき姿を自らに問い続け、求め続ける姿勢」をもって、南安曇教育文化会館※2を拠点に、研修や調査研究活動を自主的に行い、自身

の教師力の向上に努めてきました。また、安曇野ゆかりの先達の業績を顕彰し、伝え続ける伝統を受け継いでいます。

2 安曇野市内の教育施設

(1) 就学前の教育・保育施設

現在、安曇野市には、認定こども園 20 園（公立 18 園、私立 2 園）、保育園 1 園（私立）、地域型保育事業所 8 園（家庭的保育：私立 1 園、小規模保育：私立 7 園）、幼稚園 1 園（公立）、認可外私立 5 園があり、令和 2 年 9 月 1 日現在の在籍人数は、2,710 人です。

認定こども園	保育園と幼稚園の機能や特徴をあわせもった教育・保育を行う施設
	公立18園、私立2園
保育園	家庭の事情により保護者に代わって保育することを目的とした施設
	私立1園
地域型保育事業所	保育園より少人数の単位で0歳から2歳の子どもを保育する施設
	家庭的保育
	私立1園
	小規模保育
	私立7園
幼稚園	3歳から就学前までの子どもの教育を行う施設
	公立1園
認可外	私立5園

(2) 小・中学校、高等学校

現在、安曇野市には、市立小学校 10 校、市立中学校 7 校、県立高等学校が 4 校あります。令和 2 年 5 月 1 日現在、10 小学校に 4,777 人、7 中学校に 2,554 人、4 高等学校に 1,685 人が在籍しています。

	学校名	開校年	備 考	R2年度末
小学校	1 豊科南小学校	昭和44年	豊科部校と高家部校が統合	52周年
	2 豊科北小学校	昭和46年	南穂高部校と上川手部校が統合	50周年
	3 豊科東小学校	昭和57年	豊科北小から分離	39周年
	4 穂高南小学校	昭和41年	穂高小と西穂高小が統合	55周年
	5 穂高北小学校	昭和45年	有明小と北穂高小が統合	51周年
	6 穂高西小学校	昭和62年	穂高南小から分離	34周年
	7 三郷小学校	昭和45年	温明小・小倉小が統合	51周年
	8 堀金小学校	明治19年	村立堀金学校として開校	135周年
	9 明南小学校	昭和36年	中川手小・七貴小・東川手小が統廃合	60周年
	10 明北小学校	昭和36年	中川手小・七貴小・東川手小が統廃合	60周年

	学校名	開校年	備 考	R2年度末
中学校	① 豊科南中学校	昭和60年	豊科中から分離	36周年
	② 豊科北中学校	昭和60年	豊科中から分離	36周年
	③ 穂高東中学校	平成13年	穂高中から分離	20周年
	④ 穂高西中学校	平成13年	穂高中から分離	20周年
	⑤ 三郷中学校	昭和27年	組合立瑞穂中が開校、S29年村立三郷中に改称	68周年
	⑥ 堀金中学校	昭和22年	新制学制改革により誕生	74周年
	⑦ 明科中学校	昭和33年	中川手中・七貴中・東川手中が統合	63周年
高校	1 明科高校	昭和61年	新規開校	35周年
	2 豊科高校	大正11年	長野県南安曇郡豊科高等女学校発足	98周年
	3 南安曇農業高校	大正9年	長野県南安曇農学校発足	100周年
	4 穂高商業高校	大正3年	長野県学校組合立南安曇北部農学校発足	106周年

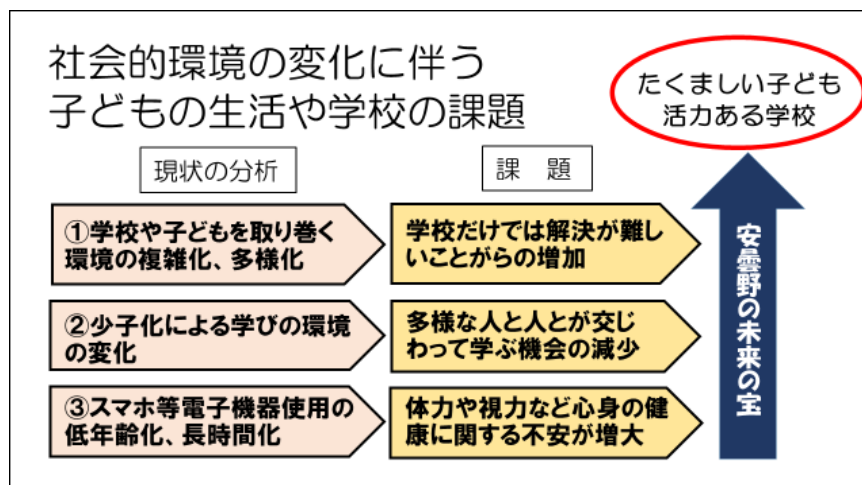
3 子どもを取り巻く環境の変化と課題

(1) 社会的環境の変化に伴う子どもや学校の課題

児童生徒や学校の現状を分析し、課題を3つに集約しました。

① 学校や子どもたちを取り巻く環境の複雑化、多様化

学校や子どもたちを取り巻く環境や状況が常に激しく変化し、価値観等の多様化もあって、学校だけでは解決が難しいことがらが多数あること。



② 少子化による学びの環境の変化

少子化による学級減やひとクラスの人数減により、多様な考えや経験をもつ人と人が交わって学ぶ機会が次第に少なくなっていること。

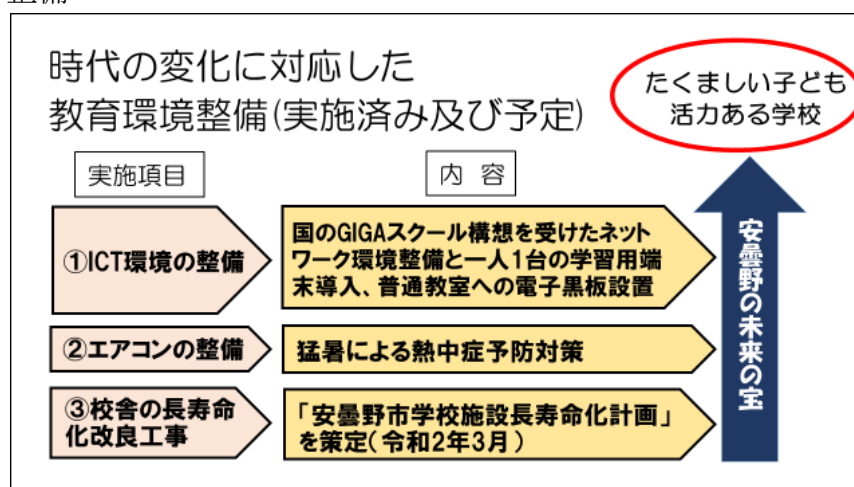
③ スマホ等電子機器使用の低年齢化、長時間化

児童生徒の生活スタイルや生活習慣の変化等により視力、体力、コミュニケーション力等の心身の健康に対する不安が増大してきたこと。

(2) 時代の変化に対応した教育環境整備

① ICT環境の整備

安曇野市では、ICT環境の整備を計画的に進め、電子黒板を平成29年度に全中学校7校のすべての普通教室に、令和2年度に全小学校10校のすべての普通教室に設置しました。



また、国のGIGAスクール構想を受け、すべての小・中学校のネットワーク環境の整備と一人一台の学習用端末の導入を令和3年5月までに設置を進めています。

② エアコンの整備

平成30年度の猛暑を受け、全小・中学校の普通教室にエアコンを令和2年度末までに設置しました。

③ 校舎の長寿命化改良工事

安曇野市の学校施設は、公共施設の約4割を占め、その中の建築後40年以上経過した校舎の保有面積が3割を占めるなど、老朽化が深刻です。

また、建築年が合併前の旧町村においてほぼ同時期であるため更新が集中する問題があります。

そこで、小・中学校の校舎の劣化状況を調査し、今後の計画的整備に資するための資料として「安曇野市学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定しました（令和2年3月）。今後、財政状況や児童生徒数の推移を踏まえつつ、学校規模の適正配置を見据えながら実施計画等に反映させていく予定です。

安曇野市立小・中学校施設の状況

小学校	当初建設年	経過年数(年)	中学校	当初建設年	経過年数(年)
豊科南小	昭和43	51	豊科南中	昭和60	35
豊科北小	昭和46	48	豊科北中	昭和62	33
豊科東小	昭和56	39	穂高東中	昭和57	38
穂高南小	昭和42	53	穂高西中	平成12	19
穂高北小	昭和44	51	三郷中	昭和52	43
穂高西小	昭和62	33	堀金中	昭和59	36
三郷小	昭和43	51	明科中	昭和61	34
堀金小	平成17	14			
明南小	平成2	30			
明北小	昭和47	48			

令和元年5月1日現在

○ 築50年を超える学校

4 安曇野市の「教育の方針」

(1) 安曇野市教育大綱

安曇野市は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行（平成27年4月1日）に伴い、総合教育会議の議論を経て「安曇野市教育大綱」を策定しました（平成27年10月）。そして、平成30年12月に開かれた総合教育会議※4において、期間を令和5年3月31日までとする新たな「安曇野市教育大綱（改訂版）」を策定しました。

この中で、平成27年度から掲げてきた「たくましい安曇野の子ども」の育成を、基本方針の第1に掲げ、その旗印として、ステッカーのリニューアルも行いました。

安曇野市教育大綱（期間：令和5年3月31日まで）

＜基本理念＞ 子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り育むまちを築きます。

＜基本方針＞（概要）

- 1 「たくましい安曇野の子ども」を乳幼児期から学齢期まで連携して育みます。
- 2 学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育みます。
- 3 豊かな体験や交流を通じて人間形成を図る保育・教育に取り組みます。
- 4 生きがいをもって地域社会で活躍できる生涯学習社会を構築します。
- 5 スポーツ活動の充実を図ります。
- 6 “文化のかおり高いまち”をつくります。
- 7 市民の多様化する要望に応え、知と心が満たされる社会の実現を目指します。

（平成30年12月18日 総合教育会議で策定）


(2) 安曇野市の目指す子ども像

安曇野市が目指す子ども像は「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる “たくましい安曇野の子ども”」です。この「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる

安曇野市が目指す子ども像

からだを動かし 頭で考え 心に感ずる^{*}
たくましい安曇野の子ども

学校教育グランドデザインのステッカー
(R2.4.1改訂)



*安曇野市出身の文芸評論家・作家・教育者 臼井吉見さんの言葉

る」のフレーズは、安曇野市堀金出身の文芸評論家・作家・教育者の臼井吉見さんが昭和42年3月に中学生に行った講演「中学生諸君にのぞむ」の中で語った言葉から引用したものです。「からだ・頭・心」のバランスの取れた具体的な目指す子どもの姿は、50年以上前と今を比べても決して色あせることなく、これから求めていきたい安曇野の子ども像を具体的にイメージできるものです。

(3) 学校教育グランドデザイン

「令和2年度学校教育グランドデザイン」では、目指す具体的な児童生徒・教職員・学校の姿として、「自ら動く児童生徒」「学び続ける教師」「地域へ飛び出す一地域との連携を強める学校」の3点を掲げました。次に、「市内全小中学校で重点的に取り組む内容」として、課題や目標10項目を掲げました。これらは、前年度までの各学校の取り組みの成果と課題を踏まえ市校長会とも協議して決めだしたものです。また、本年度新たに設けた「市研究指定校」を明記しました。さらに、これまで培ってきた「各校の特色ある教育活動」を市全体で共有化し広めるための資料として一覧表も添付しました。このグランドデザインをもとに、市立17小中学校は市の目指す教育の方針を共有しながら取り組んでいます。

令和2年度 安曇野市学校教育グランドデザイン

拡大版は資料編 P32 参照

目指す子ども像

願う 児童生徒、教師、学校の姿

市内全校で重点的に取り組む内容

市研究指定校

今後大事に取り組む施策等

目指す子ども像

願う 児童生徒、教師、学校の姿

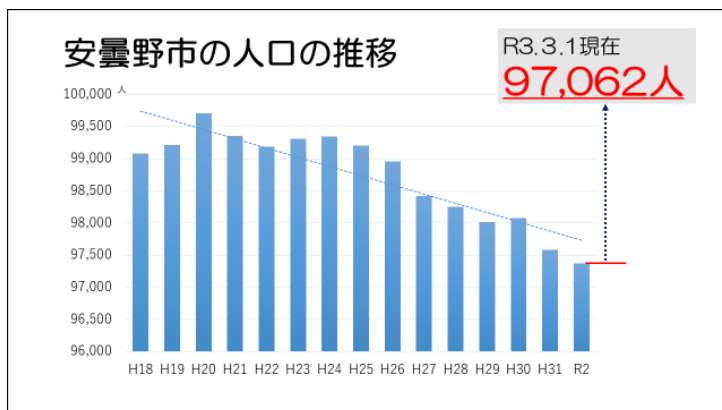
市内全校で重点的に取り組む内容

市研究指定校

今後大事に取り組む施策等

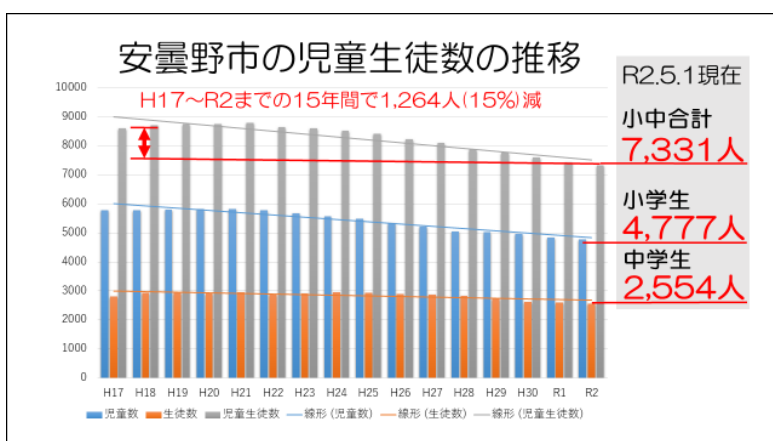
5 安曇野市の人口と児童生徒数

(1) 安曇野市の人口の推移



安曇野市の人口は、合併後しばらくして減少に転じ、減少傾向が続いており、令和3年3月1日現在 97,062 人となっています。

(2) 安曇野市の児童生徒数の推移 (合併時から現在まで)



安曇野市の児童生徒数は、令和2年5月1日現在、小学校児童数は4,777人、中学校生徒数2,554人で、合計7,331人です。合併直前の平成17年5月1日現在の児童生徒数(8,595人)と比較すると15年間に1,264人の減少(15%減)になります。

現在の児童生徒数・学級数 (令和2年5月1日現在)

	児童生徒数			学級数		
	通常学級	特別支援学級	計	通常学級	特別支援学級	計
小学校	4,480	297	4,777	158	49	207
	-95	39	-56	-4	7	3
中学校	2,395	159	2,554	78	28	106
	-59	15	-44	-1	1	0
計	6,875	456	7,331	236	77	313
	-154	54	-100	-5	8	-3

下段の数字は、令和元年5月1日との比較

昨年と本年度を比べると、通常学級在籍児童生徒は154人減ですが、特別支援学級在籍児童生徒は54人増となっています。これを、学級数で見ると、特別支援学級の学級数が増加傾向にあることから、全体の学級数の減少は小さい状況です。

【参考】学級数について …資料編 P29 参照

(3) 今後の小・中学校の児童生徒数の予測と特徴

小学校別児童数の今後5年間の増減率

	R2(人)	R7*(人)	R7-R2(人)	増減率(%)
豊科南小	681	695	14	2
豊科北小	548	538	-10	-2
豊科東小	175	114	-61	-35
穂高南小	574	596	22	4
穂高北小	674	498	-176	-26
穂高西小	393	437	44	11
三郷小	928	873	-55	-6
堀金小	482	349	-133	-28
明南小	217	175	-42	-19
明北小	105	80	-25	-24
計	4777	4355	-422	-9

*出生数を基にした推計値

○ 減少が著しい学校

次に、今後の小・中学校別の児童生徒数を、出生数をもとに推測し、令和2年度と令和7年度の児童生徒数の今後5年間の増減率をみると、小学校でその率が高いのは、豊科東小(-35%)、堀金小(-28%)、穂高北小(-26%)、明北小(-24%)、明南小(-19%)。中学校では、堀金中(-24%)、明科中(-13%)となっています。全体で、今よりも521人減少する見込みです。

中学校別生徒数の今後5年間の増減率

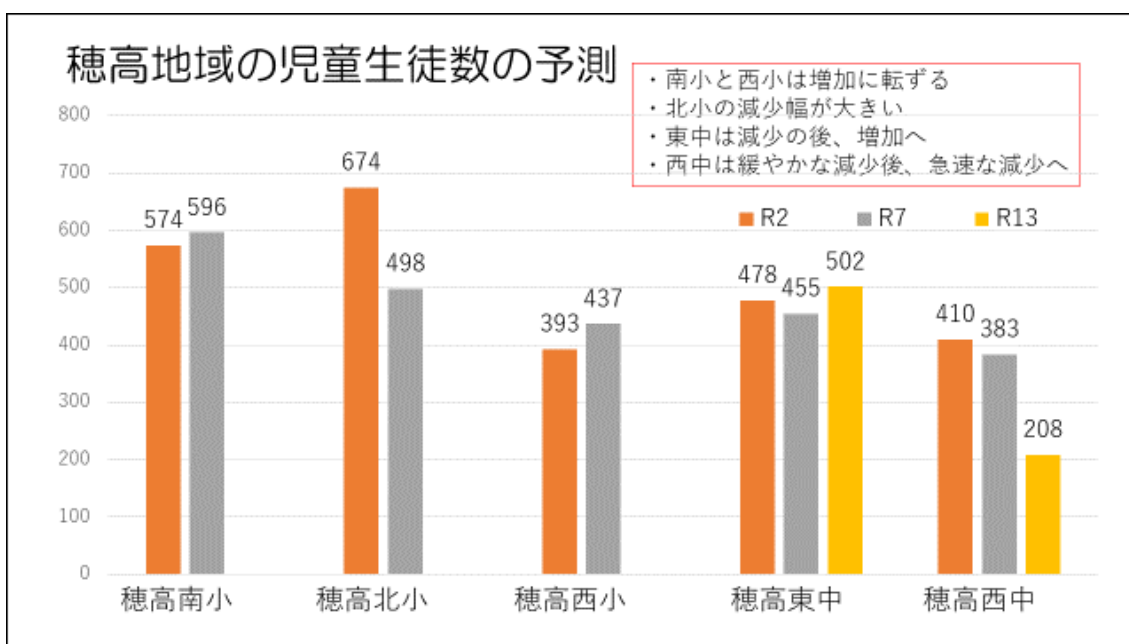
	R2(人)	R7*(人)	R7-R2(人)	増減率(%)
豊科南中	311	350	39	13
豊科北中	355	370	15	4
穂高東中	478	455	-23	-5
穂高西中	410	383	-27	-7
三郷中	507	503	-4	-1
堀金中	304	230	-74	-24
明科中	189	164	-25	-13
計	2554	2455	-99	-4
合計	7331	6810	-521	-7

*出生数を基にした推計値

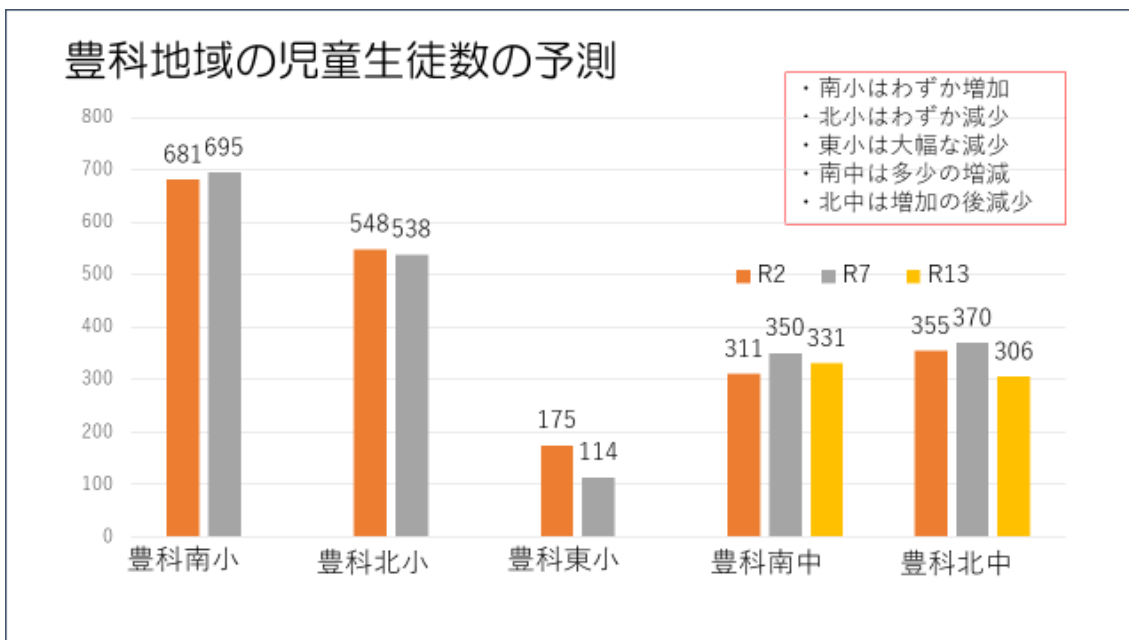
○ 減少が著しい学校

5年後の令和7年には、市内小中学校全体で521人減少することが予測される。

(4) 地域ごとにみた学校別児童生徒数の予測

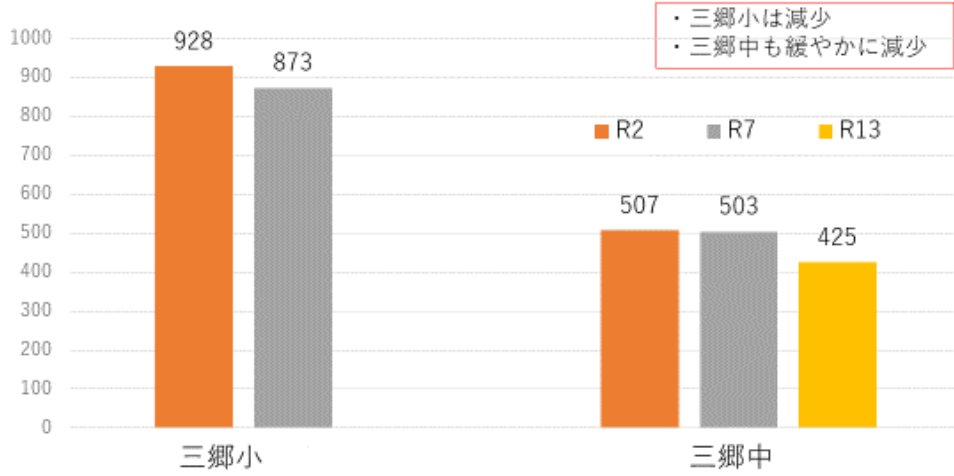


〔穂高地域〕穂高南小と穂高西小は、増加に転ずる一方、穂高北小は大幅に減少することが見込まれます。穂高東中は減少の後、増加へ、穂高西中は緩やかな減少後、急速に減少するものと思われます。



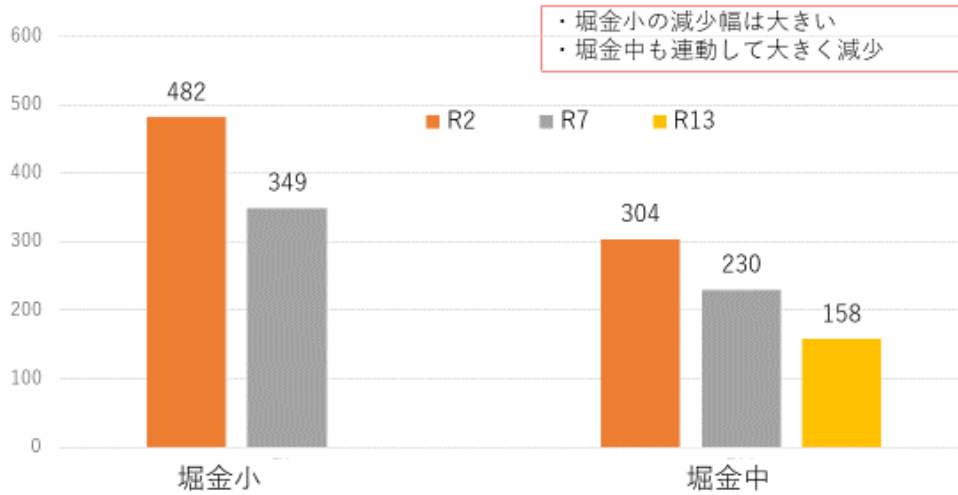
〔豊科地域〕豊科南小はわずか増加、豊科北小はわずか減少、豊科東小は大幅な減少となる見込みです。豊科南中と豊科北中は5年後まで増加した後、減少していくと思われます。その減少幅は、豊科北中が豊科南中よりも大きいと見込まれます。

三郷地域の児童生徒数の予測



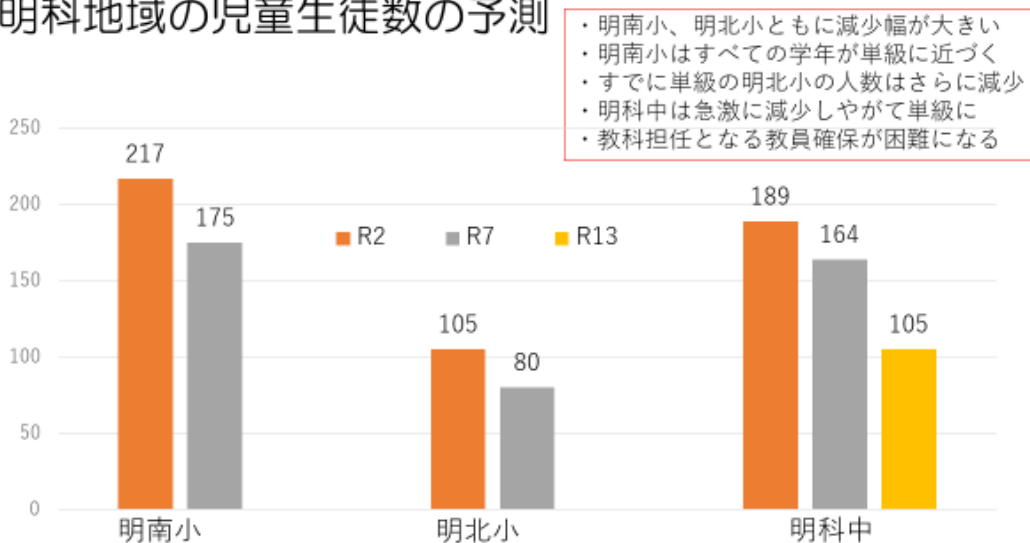
〔三郷地域〕 三郷小と三郷中は緩やかに減少していくものと思われます。

堀金地域の児童生徒数の予測



〔堀金地域〕 堀金小の減少幅は大きく、堀金中は、堀金小に連動する形で大きく減少するものと思われます。

明科地域の児童生徒数の予測

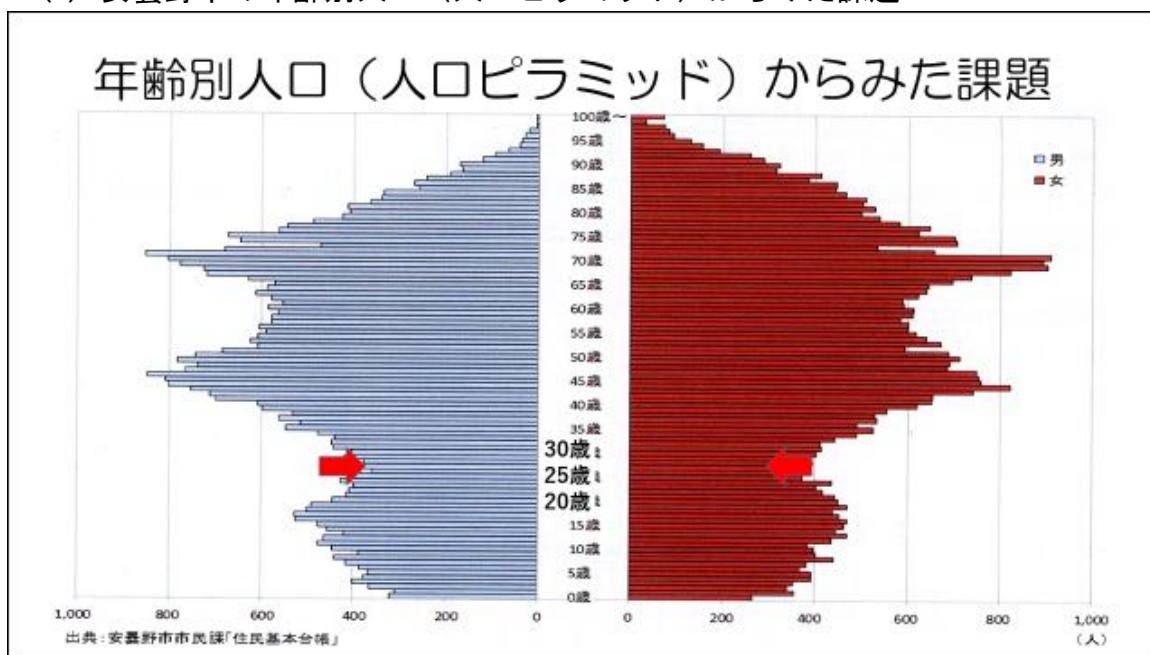


- ・明南小、明北小ともに減少幅が大きい
- ・明南小はすべての学年が単級に近づく
- ・すでに単級の明北小の人数はさらに減少
- ・明科中は急激に減少しやがて単級に
- ・教科担任となる教員確保が困難になる

〔明科地域〕明南小、明北小ともに減少幅が大きく、明南小はすべての学年が単級に近づく見込みです。すでに単級の明北小のクラスの人数はさらに減少する予測です。明科中は急激に減少しやがて単級になっていきます。そうすると、すべての教科で教科担任が学習指導を行うための教員確保が困難になるものと思われます。

6 安曇野市の未来を担う世代の状況

(1) 安曇野市の年齢別人口（人口ピラミッド）からみた課題



安曇野市の年齢別人口＝人口ピラミッドをみると、男女ともに20歳代半ばで大幅に人口が少なくなっていることが特徴です。この背景には、高校卒業後の進学、就職等で市外への転出が多いことがあげられますが、実際には、大学を卒業または就職する時点で住民票を移す結果、一気に人口が減少するのではないかと推測されます。その後は、4～5年後から徐々に安曇野に戻ってくる傾向が反映されているものと推測します。

今後、安曇野市が持続可能な活力ある自治体として生き残るためには、小中学校や高校の時代に安曇野のよさ、地域の魅力、ふるさとを心に刻んでもらえるか、安曇野地域にあるさまざまな分野の優良企業や働く場があることを認識してもらえるかなどの小中高を通じたキャリア教育についても連携して取り組む必要があるととらえています。

(2) 中学校卒業者の進路状況

① 進学率

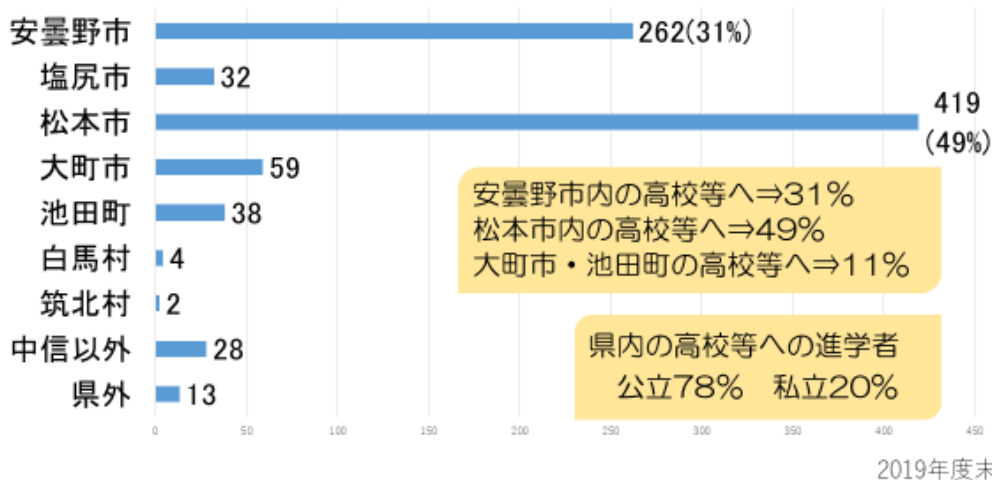
令和元年度末卒業生 869 人のうち、県内及び県外の高校等へ進学した生徒は、857 人で、卒業生数に対する割合は、98.6%でした。

安曇野市の中学校卒業者の進路状況

卒業年度	卒業生数	進学者数		各種学校等入学者数	就職者数	その他(家居等)	進学率(%)
		県内	県外				
H27	951	935	12	0	1	3	99.6
H28	947	926	17	0	1	3	99.6
H29	965	943	15	1	2	4	99.3
H30	903	886	11	2	2	2	99.3
R1	869	844	13	0	1	11	98.6

R1の進学率＝高校等への進学者数(857)÷卒業生数(869)×100

高校等進学者の学校所在市町村別人数



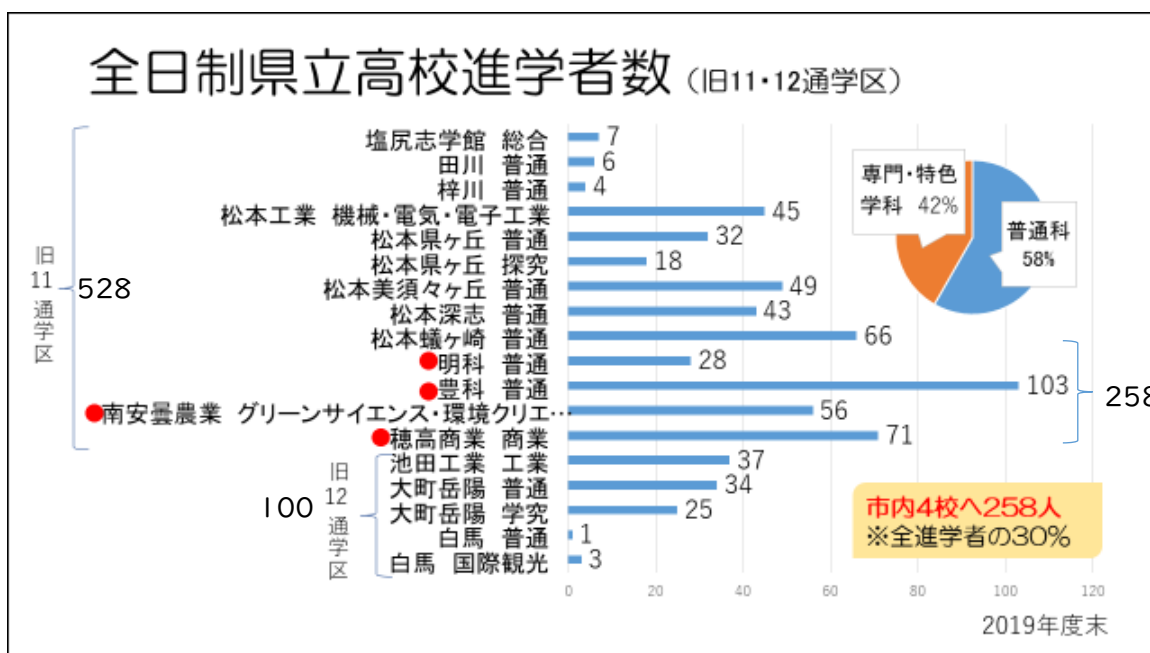
② 高校等進学者の学校所在地市町村別人数

県立高校進学者 657 人中、旧 11 通学区全日制は 528 人で全体の 80%、隣接する旧 12 通学区全日制は 100 人で 15%を占めます。市町村別では、松本市内の高校等へは 49%、安曇野市内の高校等へは 31%、大町市・池田町の高校へは 11%、また、県内の高校等に進学した者（98%）のうち公立が 78%、私立が 20%です。

※池田町 38 人の内 1 人は、長野県安曇養護学校高等部への進学者です。同校高等部には、募集定員 8 名の「あづみ野分教室」が、県南安曇農業高校内に平成 22 年 4 月に開室しました。「地域との関係を深めた作業学習、日常生活に必要なコミュニケーション能力を高める学習、就労に向けての力をつける学習」に取り組む特色ある教育を行っています。

③ 県内全日制高校の高校・学科別人数普通科が 60%、専門学科・特色学科が 40%、そのうち、商業科が 12%、工業科が 11%、農業科が 7%となっています。さらに、旧 11・12 通学区全日制県立高校進学者数をみると、安曇野市内 4 高校には、合計 258 人で全通学者の 30%、旧 11・12 通学区の 41%を占めています。また、学科別では普通科へ 58%、専門学科・特色学科へ 42%進んでいます。

これらのことから、安曇野市の中学生にとって、安曇野市内 4 高校は重要な進学先であること、そして、隣接する旧 12 通学区も含めると、普通科のみならず、多様な専門学科・特色学科があり、これらを積極的に選択していると考えられます。



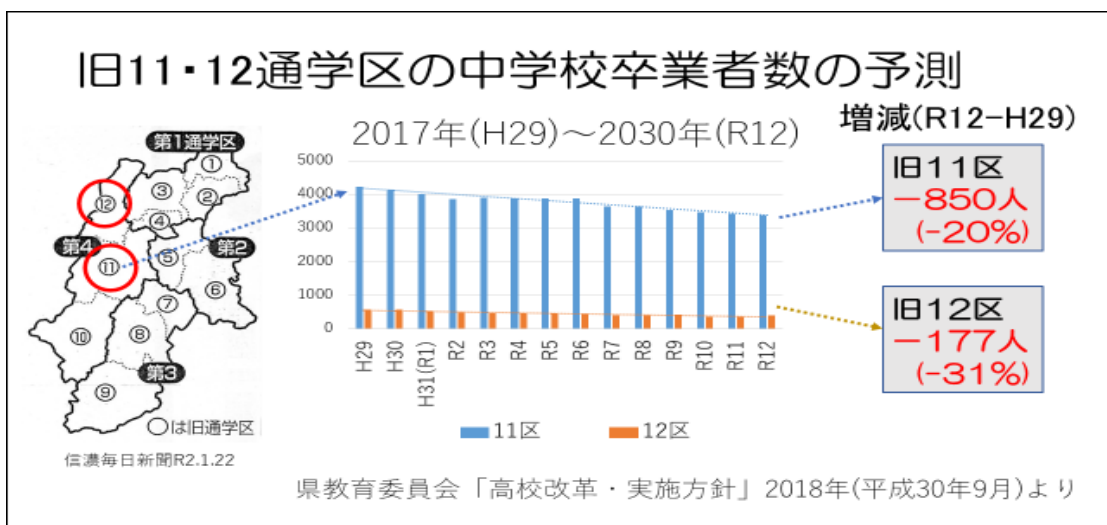
(3) 安曇野市周辺地域の少子化の状況

令和2年4月1日現在の長野県の「毎月人口異動調査」をもとに、旧11・12通学区の市町村の少子化の状況をみると、安曇野市の令和2年4月1日現在の0歳児は、618人で、今年の15歳・高校1年生879人と比較すると、-261人、増減割合30%減になります。つまり、15年後の高校1年生は、安曇野市では261人の減ということになります。これをクラス数に換算すると、安曇野市の中学校全体で7～8学級の減ということになり、11通学区全体の828人の減少をクラス数に換算すると40人学級が20学級、公立・私立合わせて20学級分の生徒が減少することになります。

		0歳児	15歳(高1生)	増減	増減割合(%)
旧11通学区	松本市	1719	2151	-432	-20
	塩尻市	477	564	-87	-15
	安曇野市	618	879	-261	-30
	麻績村	15	19	-4	-21
	生坂村	14	12	2	17
	山形村	63	87	-24	-28
	朝日村	32	38	-6	-16
筑北村	14	30	-16	-53	
	小計	2952	3780	-828	-22
旧12通学区	大町市	136	214	-78	-36
	池田町	48	78	-30	-38
	松川村	40	95	-55	-58
	白馬村	52	69	-17	-25
	小谷村	15	19	-4	-21
	小計	291	475	-184	-39

(4) 旧11通学区・旧12通学区の中学校卒業生数の予測と課題

県の資料によると、旧11通学区の中学校卒業生数は、2030年には2017年の80%まで減少し、旧12通学区では69%まで減少するとの試算がなされています。旧12通学区は、安曇野市に隣接し、現在本市の中学校卒業生の約11%が進学する地域ですが、県全体の中学校卒業生数の比率75%と比較しても、減少が著しい地域です。中学生の期待に応えられる地域の高校の学びの場を整備していく必要があります。



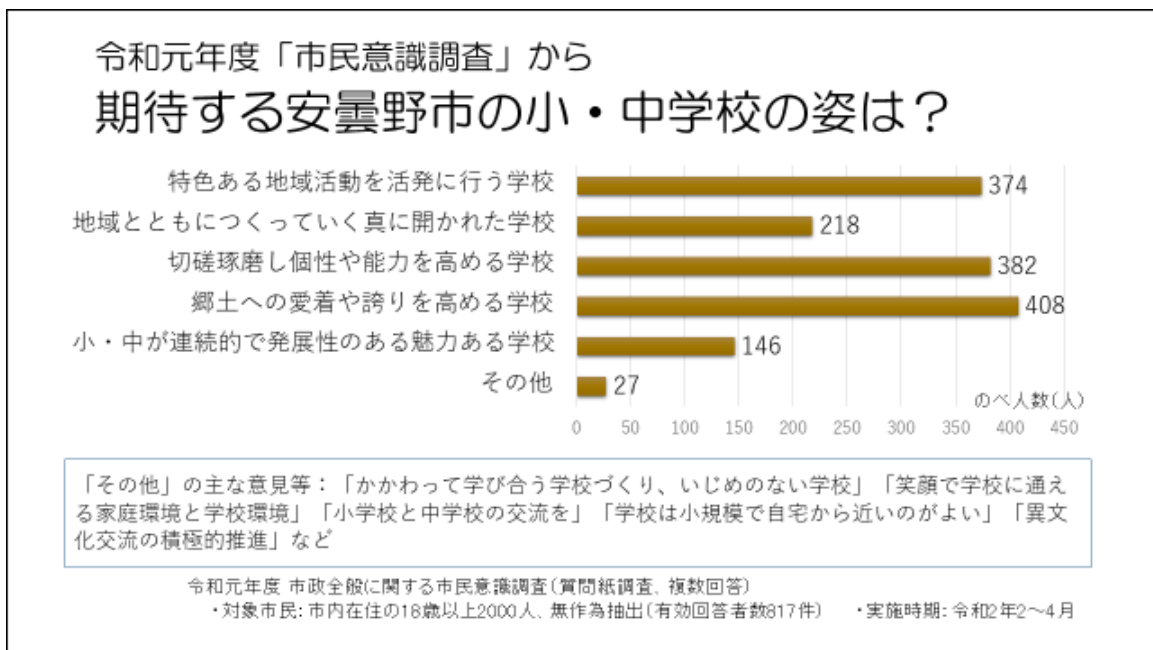
7 市民が期待する小・中学校の姿と市が目指す活力ある学校の姿—5つ学校像

(1) 「市民アンケート調査」等からみた期待する小・中学校

安曇野市政策部政策経営課が実施した「令和元年度 市政全般に関する市民意識調査」〔令和2年3月24日から4月10日までの期間に、市内在住の18歳以上2000人（無作為抽出）に郵送調査）、有効回答者数817件（回収率40.9%）の「学び合い人と文化を育むまち」の教育に関する質問項目として、問4-10 「あなたが期待するこれからの安曇野市の小中学校の姿はどれですか。」（複数回答）を尋ねました。

その結果、市民が期待する安曇野市の小中学校の姿は、「郷土への愛着や誇りを高める学校」「切磋琢磨し個性や能力を高める学校」「特色ある地域活動を活発に行う学校」で高く、「地域とともにつくっていく真に開かれた学校」「小・中が連続的で発展性のある魅力ある学校」は低い傾向があることがわかりました。

また、「その他」の意見には、「子どもたちがかかわって学び合う学校づくり。小学校と中学校の交流を。」などがありました。



(2) 市が目指す活力ある学校の姿—5つの学校像

教育委員協議会では、アンケート結果等をもとに、「安曇野市が目指す活力ある学校」とはどのような学校かについて協議し、期待する「これからの学校」、目指す「活力ある学校」として、次の5つにまとめました。

期待する「これからの学校」の姿

- ① 独自の特色ある教育や地域活動を活発に行う学校
- ② 地域との協働による真に開かれた学校
- ③ 切磋琢磨し個性や能力を高める学校
- ④ 郷土への愛着や誇りを高める学校
- ⑤ 小・中の学びが連続的で発展性と魅力がある学校

目指す「活力ある学校」の姿

- ① 独自の特色ある教育や地域活動を活発に行う学校
地域住民、児童生徒や教職員の思いが大切にされ、創意工夫を凝らした独自の特色ある教育活動を展開する学校
- ② 地域との協働による真に開かれた学校
保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させたり、学校の様々な課題解決に地域住民が積極的に参加したりして、地域とともにつくっていく真に開かれた学校
- ③ 切磋琢磨し個性や能力を高める学校
一定数の児童生徒がともに生活する学校で、多様な考えをもつ人間が触れ合い学び合って、切磋琢磨しながら個性や能力を高めていく学校
- ④ 郷土への愛着や誇りを高める学校
地域の豊かな自然・歴史・文化・地域産業資源に着目した体験的な活動を多く取り入れ、郷土への愛着や誇りを育む学校
- ⑤ 小・中学校の学びが連続的で発展性と魅力がある学校
現在ある小学校と中学校を組み合わせで一貫教育を行う「小中一貫教育」の導入、小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して一体的に行う「義務教育学校」の創設など、学校（区）ごとに理念や方針を明確にした魅力ある学校

8 安曇野市の教育・学校の将来像

さらに、これからの安曇野市が目指す教育・学校の将来像として、大きく2つの目標を設定しました。

安曇野市の教育・学校の将来像

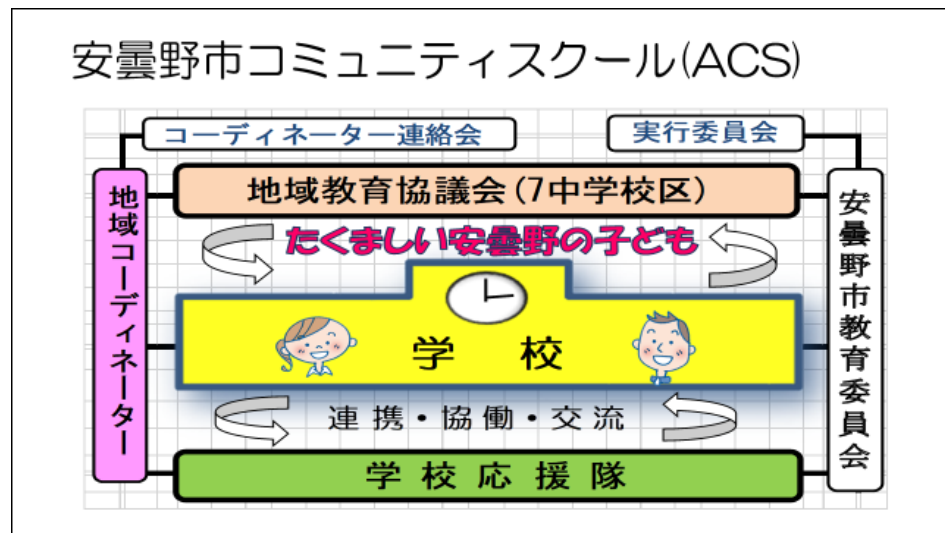
- 郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現
- 行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力ある学校の創造

9 「活力ある学校づくり」を目指した具体的方策

2つの教育・学校の将来像を目指して、5つの学校像を掲げ、安曇野市立小・中学校の学びの環境をよりよいものにしていくために、コミュニティスクールの活性化、小中一貫教育の導入、「安曇野の時間」の創出の3つの柱を立てました。

(1) コミュニティスクールの活性化

コミュニティスクールとは、「保護者や地域住民の協力と支援で、地域とともにつくる学校づくりを行うためのしくみ」のことです。



安曇野市では、平成21年度から安曇野市学校支援助地域本部事業を取り入れ、平成26年度からは安曇野市スクールサポート事業、平成29年度からは、県教育委員会が推奨している信州型コミュニティスクールとして、「安曇野市コミュニティスクール(ACS)」の名称で充実を図ってきました。※5

安曇野市コミュニティスクール(ACS)の成果と課題



① 裁縫学習

② 総合(太鼓)

③ 八面大王劇

④ クラブ活動(折り紙)

⑤ 自主学习

〔児童生徒〕 ● “社会で生き抜く力、ふるさと安曇野への愛着や誇り、学ぶ楽しさ” が育っている

〔地域〕 ● “やりがいや生きがい”を感じる、かかわることが楽しい、子どもから元気もらおう

▲ 「学校に関心はあるが、どうやって協力したらよいかわからない、かかわり方がわからない」

「経験や知識を子どもたちにもっと伝えたい」「敷居がまだまだ高い気がする」

〔学校〕 ▲ 「いつでも学校に来ていただけるような柔軟なしくみが欲しい」

➡ 地域とともに、真に開かれた学校を目指す

その結果、これまで大勢の地域の方々に支援をしていただき、児童生徒は、“社会で生き抜く力、ふるさと安曇野への愛着や誇り、学ぶ楽しさ”などを育てていただいています。また、地域の方々からは「“やりがいや生きがい”を感じる、かかわることが楽しい、子どもから元気をもらう」と嬉しい言葉をいただいています。一方で、「学校に関心はあるが、どうやって協力したらよいかわからない、かかわり方がわからない」「経験や知識を子どもたちにもっと伝えたい」「敷居がまだまだ高い気がする」などの意見もいただいています。学校からは、「いつでも学校に来ていただけるような柔軟なしくみが欲しい」という声が寄せられました。

そこで、現在の組織を見直し、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、学校の様々な課題解決に地域住民がもっと積極的に参加して、地域とともに生きていく真に開かれた学校づくりを更に進めるため、新たに各学校ごとに学校運営協議会を導入した国型のコミュニティ・スクールへの移行を目指すことにしました。

国型のコミュニティ・スクールでは、これまでの学校と地域とのかかわり方が、連携から協働へとより密度の濃いものを目指すことになることから、これまでの安曇野市コミュニティスクールで用いてきた名称も、理念や考え方を反映したものにするため変更したいと考えています。

- ・地域教育協議会➡学校運営協議会
- ・学校応援隊➡地域学校協働本部（仮称「ボランティア会」）
- ・地域コーディネーター➡地域学校協働活動推進員

活性化の方向性

保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、学校の様々な課題解決に地域住民が積極的に参加できる体制

➡ 国型コミュニティ・スクール*へ (イメージ図)



*「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6」(H29.4施行)

(2) 新たな学校運営協議会の主な役割と協議会運営のポイント

各学校に設置される学校運営協議会の主な役割は3つあります。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ② 学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができる。
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

学校運営協議会の主な役割(その1)

①校長が作成する学校運営の**基本方針を承認**する。

- (例) 校長 挨拶が自然にできる子どもたちを育みたいと思います。
- 委員 とてもよい方針ですね。賛成です。
- 委員 こども園や老人クラブとの連携も入れるといいですね。

学校運営協議会の主な役割(その2)

②**学校運営**について、教育委員会または校長に**意見を述べる**ことができる。

- (例) 校長 学校が災害時の避難所に指定されました。
- 委員 生徒も地域防災訓練に参加してはどうでしょう？
- 委員 当日はコーディネーターと学校応援隊で対応します。
- 委員 私は消防団と段取りを考えますよ！

学校運営協議会の主な役割(その3)

③**教職員の任用**に関して、教育委員会規則に定める事項について教育委員会に**意見を述べる**ことができる。

- (例) 校長 来年度一人1台のパソコンが導入されます。
- 委員 これからの時代に必要な力を育てたいですね。
- 委員 ICT教育に精通している先生の配置を希望したらどうでしょう？

なお、③については、教育委員会規則で、意見の申出内容が定められます。

ここでの任用に関する意見は、分限処分、懲戒処分、勤務条件等の決定にかかわる事項は含まれません。つまり、実現しようとする教育目標に沿った教職員の配置、教職員構成のあり

方等を求めるものであり、目指す学校像、学校運営ビジョンを実現させるための意見ということになります。

次に、学校運営協議会の運営のポイントを3つに整理しました。

学校運営協議会運営のポイント

①非常勤特別職の公務員として、教育委員会から任命される。

②合議体の協議会運営者として、当事者意識をもって臨むことが求められる。

③自立した運営を行う。

(例) 司会・記録・事務等を委員が率先して行うなど、学校任せや負担にしない意識が大切。

まず、委員は、非常勤特別職の公務員として、教育委員会から任命されることとなります。したがって、合議体の協議会運営者として、当事者意識をもって臨むことが求められます。

また、会議における司会・記録・事務等は委員が率先して行うことにより、自立した運営を行うことが大切です。学校任せにせず、学校に負担をかけない運営体制を構築する必要があります。

年間議事内容の例

4月	→	協議会の年間計画立案、組織編成
5月		
6月	→	学校行事等への参加、学校運営への意見
7月		
8月	→	教職員や保護者との交流、学校運営への意見
9月		
10月	→	教職員任用の意見
11月		
12月	→	学校関係者評価の考察
1月		
2月	→	次年度学校運営の基本方針の承認
3月		

なお、年間の議事内容の例を示しました。

(3) 新しいコミュニティ・スクールへの移行で変わる事・期待されること

- ・各学校に学校運営協議会を設置することで、協議会の開催回数を増やすことができ、学校の様々な課題に地域住民が、より当事者意識を持って積極的に参加し、学校と地域が一緒に問題解決に当たることが期待できる。(真に開かれた学校)
- ・学校応援隊を組織化し、地域住民が運営するボランティア会とすることにより、学校の支援要請にスピーディーに応えることができる。(無償のボランティア活動)
- ・学校が地域コミュニティのよりどころ(拠点)となる。

(4) 小中一貫教育の導入と期待されること

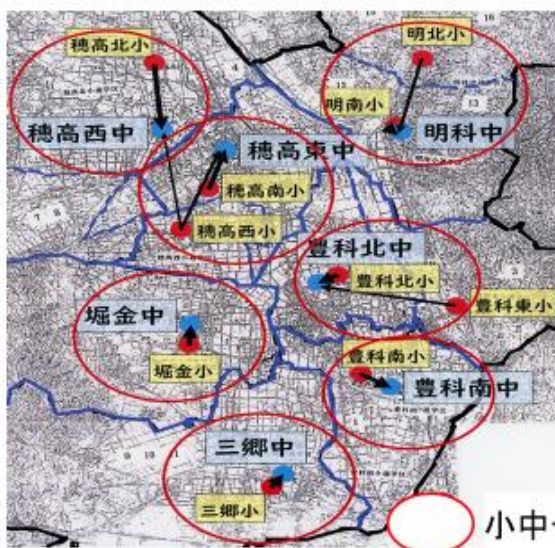
今後の日本の教育に求められることとして、松本大学山崎保寿教授は、教育委員協議会での講演会（令和2年2月18日）の中で、「同一学区内の小・中学校が、学校教育目標や目指す子ども像を共有し、その達成に向けて小・中学校9年間を通じた系統的な教育活動（教育課程）を展開することにより、児童生徒のより豊かな学びと成長を実現しなければならない」。そこで、安曇野市でこれまでも行ってきた中学校区での小中連携教育をさらに発展させ、小中一貫教育の導入を目指すことにしました。※6

小中一貫教育の導入で期待されること

- ・ 新たな学年のまとまりと段階→①継続的で段階的な学びの実現
- ・ 地域の願いや学校教育目標の共有→②意欲の継続と学びの自信
- ・ 地域の自然・文化・歴史の系統的な学び→③郷土への誇りや愛着
- ・ 多様な人との触れ合いや切磋琢磨→④学力、個性や能力の伸長
- ・ 異年齢交流の機会の創出→⑤思いやりや社会性、自尊感情の醸成
- ・ 「10歳の壁」や「中1ギャップ」→⑥不安感の軽減 ※7、※8
- ・ 教職員の子ども理解に基づく学び合い→⑦個に応じた指導の充実
- ・ 教育課程特例校制度の活用→⑧新たな魅力ある学校の創造 ※9
- ・ コミュニティスクールの活性化→⑨地域とともにある学校づくり

(5) 安曇野市の目指す小中一貫教育の枠組み

中学校区の連携強化から小中一貫教育へ



イメージ図

小中一貫教育を行う学校群			義務教育学校	
中 学 校	3学年	→	後 期	9学年
	2学年			8学年
	1学年			7学年
A 小 学 校	6学年	B 小 学 校	前 期	6学年
	5学年			5学年
	4学年			4学年
	3学年			3学年
	2学年			2学年
	1学年			1学年

○ 小中一貫教育の枠組み

(6) 安曇野市小中一貫教育に向けた市指定校研究

安曇野市教育委員会では、前ページ(4)の小中一貫教育の導入で期待されること、9年間の継続的で段階的な学びにより、いわゆる「中1ギャップ」(※8)の解消のほか、郷土への誇りや愛着の醸成、学力、個性・能力の伸長、小中の教職員が深い児童生徒理解に基づいた連携した指導や、学び合って指導力を向上させることなどについて具体的にその方法や課題等を明らかにするために、指定校研究を実施することとし、令和2年度に、明北小学校、明南小学校、明科中学校を指定し、次のような研究内容を実施することとしています。

- ・同一学区の小・中学校が目指す「たくましい安曇野の子ども」の具体像
- ・児童生徒の実態や地域の特性を基にした「9年間を通じた教育課程」
- ・教育課程特例校制度の活用（魅力ある特色ある学校の創出）※9
- ・小学校における教科担任制の導入 ※10
- ・小中一貫教育で期待される具体的な効果
- ・義務教育学校創設の可能性 ※6
- ・明科南・北認定こども園や明科高校との連携
- ・今後の新しいコミュニティ・スクールとの一体的な取り組み

安曇野市の「施設分離型小中一貫校」

1中学校・2小学校の組合せ



①穂高東中—穂高南小—穂高西小

※穂高西小は2つの
中学校へ進学する

②穂高西中—穂高北小—穂高西小

③豊科北中—豊科北小—豊科東小

④明科中—明南小—明北小<R2研究指定校>

※明科中と明南小は校舎が隣接している

1中学校・1小学校の組合せ



⑤豊科南中—豊科南小

⑥堀金中—堀金小

⑦三郷中—三郷小

(7) ふるさと安曇野市の自然・文化・歴史等を学ぶ「安曇野の時間」(仮称)の創設

安曇野市立小・中学校では、ふるさとである安曇野市の自然や文化、歴史等について、地域に出かけて調査活動を行ったり、地域の方々から直接お話をお聞きしたりして、折に触れて体験的・探究的に学んできています。そして、そのことは、各小中学校の特色ある教育活動ともなっています。

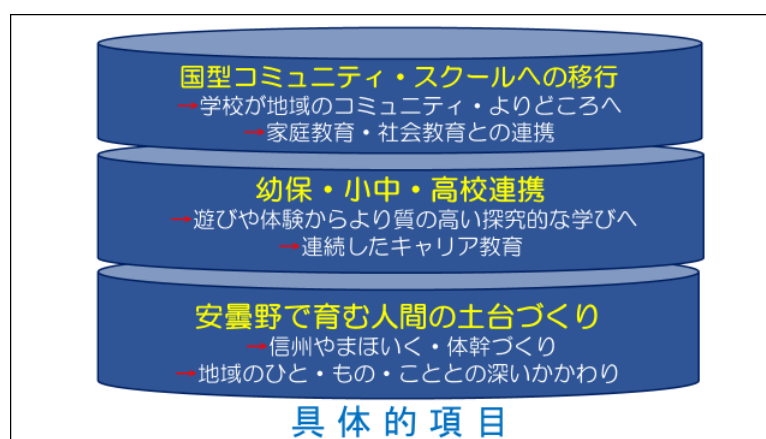
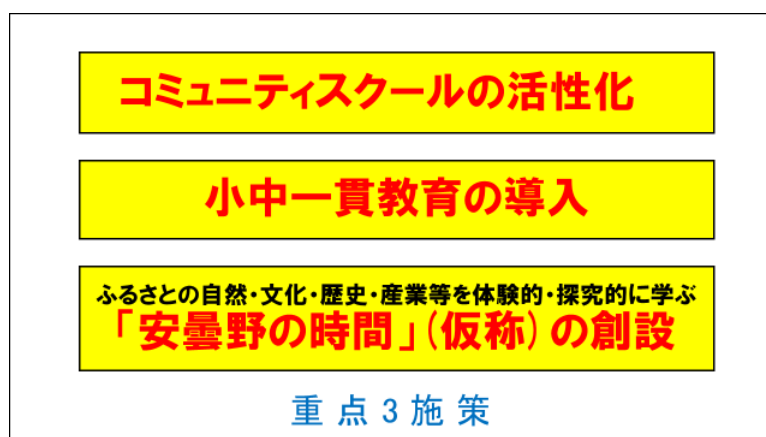
これらを、小中一貫教育の中で改めて見直し、この地で教育を受ける児童生徒にとって、どのような内容をいつの時期(年齢)に学ぶことがよいのかを整理し体系化して、安曇野市に対するより深い理解のもと、ふるさとに対する愛着や誇り、自信につなげたいと願っています。

さらに、県立高校では、「信州学」を中心にして主体的・対話的で深い学びの実現を目指しているので、市内4高校でも安曇野市の地域素材を教材として活用し、探究的な学びが実現するよう連携を強化していきたいと考えています。

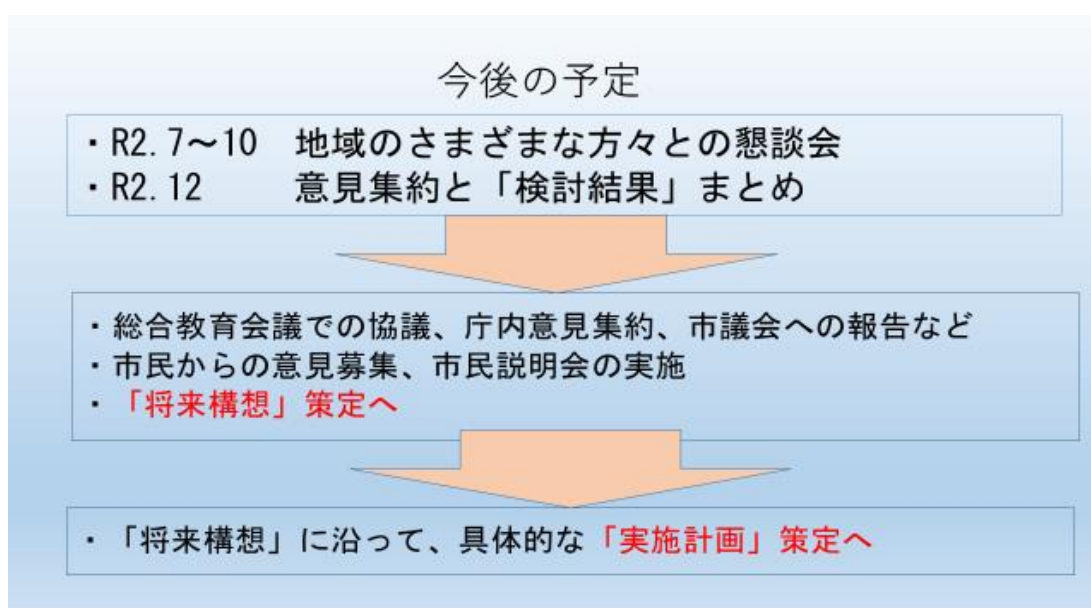
なお、市教育委員会文化課では、安曇野市誌編纂事業を本格的にスタートさせますが、この中で「子ども版『安曇野市誌』」についても検討しています。将来的には、「安曇野の時間」のテキストとして活用できるよう連携を図ってまいります。

10 これからの安曇野市の教育・学校のあり方について（まとめ）

この地で学ぶすべての子どもたちが、持てる力を伸ばし、心豊かにたくましく生き抜く力を育む教育環境を、学校・地域とともにつくっていく基本的立場に立って、「郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現」「行きたい学校、学びたい学校、地域から求められる魅力ある学校」を目指して、重点3施策、具体的項目を掲げ、認定こども園・幼稚園や高等学校等とも連携して取り組みます。



今後の予定は次のとおりです。



【資料編】

1 安曇野市教育委員協議会の協議経過

(1) 安曇野市教育委員協議会の開催状況

開催日	主な協議内容等
R1. 11. 28 第1回	児童生徒数の最新予測、国・県の考え方共有
R1. 12. 25 第2回	検討項目の整理、県内他市の事例研究
R2. 1. 29 第3回	市民意識調査の活用、明科北認定こども園の方針確認
R2. 2. 18 第4回	松本大学山崎保寿教授の講演会
R2. 3. 26 第5回	学校施設改修・長寿命化改良工事の確認
R2. 4. 23 第6回	安曇野市小中学校の学校沿革史の確認
R2. 5. 27 第7回	懇談会説明資料の検討、県外視察の検討
R2. 6. 29 第8回	懇談会説明資料の検討、懇談会の日程調整
R2. 7. 28 第9回	懇談会の報告、「構想イメージ図（案）」の検討
R2. 8. 25 第10回	懇談会の報告、構想案骨子案の検討
R2. 9. 24 第11回	将来構想（素案）の検討
R2. 10. 21 第12回	全体構想図の検討
R2. 11. 16 第13回	将来構想（案）の検討
R2. 12. 21 第14回	将来構想（案）の検討
R3. 1. 13 第15回	研究指定校明科地域3校長との意見交換

(2) 教育委員及び教育委員会事務局が各種団体・組織と行った懇談会

開催日	懇談先	参加人数
R2. 7. 7	区長会正副会長会	安曇野市区長会正副会長 5人
R2. 7. 9～8. 5	地域教育協議会	地域教育協議会委員のべ 84人、17会場
R2. 7. 14	市校長会	小中学校校長 17人
R2. 7. 21	県教委	中信教育事務所長ほか 2人
R2. 7. 27	社会教育委員	市社会教育委員 12人
R2. 8. 3	県教組安曇野支部	執行委員長ほか役員 8人
R2. 8. 19	市内4高校長	市内高校長 4人
R2. 10. 6	退職校長会南安支会	会長、副会長、幹事 7人
R2. 10. 12	公民館関係者	公民館長 5人、社会教育指導員 6人
R. 2. 10. 22	市教頭会	小中学校教頭 17人
R. 2. 11. 13	市P連役員会	市P連役員 9人
R. 2. 11. 18	市園長会	認定こども園・幼稚園園長 19人

※4 総合教育会議とは

平成27年4月施行の改正地方教育行政法に基づき、教育政策について協議・調整するため設置された。市長と市教育委員会（教育長及び教育委員）で構成され、市長が招集する。

※5 コミュニティ・スクールが登場する背景

1990年代前半まで「学校教育は学校が担うべきもので、地域住民や保護者等は学校教育に介入しない」という考え方が根強く浸透していたが、1990年代後半になると、地域住民や保護者等が学校に参画する必要性が指摘されるようになった。

さらに、複雑・多様化した子どもや学校の抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、質の高い学校教育の実現を図るためにコミュニティ・スクールを創出し、学校運営に広く保護者や地域住民がその当事者として参画し、地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進することとなる。（文部科学省HPから）

※6 小中一貫校、義務教育学校とは

義務教育学校は、平成28年の学校教育法の改正により誕生。9年間の義務教育を一貫して行う新しい日本の学校（一条校）。小中一貫校の一種。従来の6-3制の枠組みにとらわれることなく、小中の学年の区切りを柔軟に変えたカリキュラム編成が可能になった。

現行の小・中学校との違い（例）：早期カリキュラムの導入、小学校段階からの教科担任制、児童会と生徒会・学校行事・・・校則の小中一体化、小中一貫の部活動などが可能となる。

○小中一貫校と義務教育学校の主な違い

小中一貫型小学校・中学校の校長はそれぞれに配置されるが、義務教育学校の校長は1人。義務教育学校の教員は、原則として小中学校両方の教員免許状が必要となる。

○長野県の義務教育学校：信濃小中学校、美麻小中学校、根羽学園（令和2年4月）

○義務教育学校を視野においた小中一貫教育の例

9年間を通じた教育課程の創出（児童生徒の実態や地域の特性から）

※学年のまとまりを「4-3-2年」に見直した場合

1～4年生 学級担任制—基礎・基本の定着を図る学習

（読み・書き・計算の習得、自己主導の学びを重視）

5～7年生 教科担任制—個性・能力（適性）の伸長を図る学習

（学力の定着と個々の能力を引き出す習熟度別学習の充実、考える力や社会性を育む協同の学びを重視）

8～9年生 教科担任制—個性・能力（適性）の一層の伸長を図る学習

（自学自習、思考力・判断力・表現力を発揮した探究力、情報発信力を重視）

※7 「10歳の壁」とは

「10歳の壁」とは、小学校4年生前後の時期に子どもが直面しかねない、勉強面や内面的成長の変化を指す言葉。「9歳の壁」「小4の壁」とも呼ばれる。年齢に応じた子ども発達段階と深く関係しており、発達の個人差が顕著になり、身体も成長し、自己肯定感を持ち始める反面、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。また、抽象的な概念も理解するようになる時期とも言われる。実際に、算数の分数や割り算につまずいてしまうことがあるため、丁寧な指導が必要である。

※8 「中1ギャップ」とは

小学生が中学1年生に進級した際に、今までと全く違う学校生活や授業のやり方、学習内容、人間関係の変化などから、新しい環境になじめない現象のこと。不登校となったり、いじめが急増したりするなどの問題につながることもあると言われている。

※9 教育課程特例校制度の活用

教育課程特例校制度とは、文部科学大臣が、学校教育法に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度である。(文部科学省HP)

他地域の学校にはない特色ある魅力あふれる学校づくりを図る。

※10 小学校における「教科担任制」とは

小学校では、教科等の学習指導を、原則として学級担任と一部専科教員が担っているが、高学年において教科を選んで、学年内や学校内の教員による教科担当者を決め、授業交換等により教科指導を学級担任以外の教員が行うこと。小中一貫校では、小中の教員による授業交換も可能となる。

3 学級数について

(1) 学級の人数の基準

小中学校の学級の人数を国は40人（小学校1年生のみ35人）を標準と定める。長野県は全学級で35人、特別支援学級8人を基準としている。

※国の標準の考え方によると、学級編制の標準は40人を上限とすることから、下限は20人と算定できる。

※学級編制の標準については、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」を参照

(2) 学級数減少に伴う「懸念される一般的な課題」

- ・社会性やコミュニケーション力を伸ばす場をつくりにくい。
- ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定しやすい。
- ・協働的な学びの設定が難しい。
- ・限られた数の教員の中で、多様な専門性に触れる機会が少なくなる。
- ・切磋琢磨して競い合って育つ場面をつくりにくい。
- ・教員への依存心が強まる可能性がある。
- ・進学等の際に大きな集団へすぐに適応できない可能性がある。
- ・同世代の多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが少ない。
- ・大勢の中で活動する機会が少なく、多面的な評価を受けることが難しい。

(3) 望ましい学級数の考え方

小学校では、まず複式学級解消のため少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが必要。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置したりするためには、1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましい。

中学校では、（略）少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が必要。また、免許外指導をなくしたり、すべての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

（文部科学省（H27）「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」）

安曇野市教育大綱

期間：平成30年12月18日～令和5年3月31日
〈平成30年12月18日開催 総合教育会議で決定〉

基本理念

子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り育むまちを築きます。

基本方針

- 1 “からだを動かし、頭で考え、心に感ずる”「たくましい安曇野の子ども」を乳幼児期から学齢期のそれぞれの発達に応じて、連携して育みます。
- 2 豊かな人間性の基礎と社会性を育む家庭教育を充実し、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育みます。
- 3 安曇野の自然や人の中で、豊かな体験や交流を通して人間形成を図る保育・教育に取り組みます。
- 4 生涯の各段階に応じた学習機会を充実させ、生きがいをもって地域社会で活躍できる生涯学習社会の構築を図ります。
- 5 スポーツ活動の充実を図り、だれもが健康で笑顔あふれ、活力みなぎるまちを目指します。
- 6 先人が培ってきた歴史や文化を基にした文化芸術の振興を図り、“文化のかおり高いまち”をつくります。
- 7 市民の多様化する「学び」の要望に応え、本や情報と人とが出会い交流する広場を創出し、知と心が満たされる社会の実現を目指します。

令和 2 年度
安曇野市が目指す学校教育の方針



「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる」は、安曇野市に生まれた作家・文芸評論家・教育者 白井 吉見が、昭和 42 年に信州大学教育学部附属長野中学校開校 20 周年記念講演「中学生諸君に望む」と題する講演会の中で語った言葉

令和 2 年 4 月 1 日
安曇野市教育委員会



令和2年度 学校教育グランドデザイン 改訂の趣旨

○「目指す児童生徒、教師、学校の姿」を具体的に見える姿の表現に

1 「主体的に学びあう児童生徒」から「自ら動く児童生徒」へ

かかわりあって学びあう学習を日常化させるとともに、授業とそれ以外のあらゆる生活場面で、自主的、主体的に行動する児童生徒を育て、自らの判断力と行動力をはたらかせて自ら動く児童生徒に高めます。

2 「専門性を高めあう教師」から「学び続ける教師」へ

自ら動く児童生徒を育むために、教師自身が自ら求め自らを高めようとする姿勢を持ち続けたい。そのために、自校や近隣の学校で行われる研修に積極的に参加する「自校や他校の教師・実践から学び、自らも挑戦しようとする教師」を目指します。さらに、経験や年齢に関係なく常に児童生徒、保護者の思いを受け止める人間力に富む教師であるよう努めます。

3 「地域へ積極的に発信する学校」から「地域へ飛び出す-地域との連携を強める学校」へ

これまで取り組んできた安曇野市コミュニティスクールを、今後、さらに充実・発展させ、地域住民とともに真に開かれた学校づくりを目標とします。そのために、自校の「ボランティア会（仮称）」の立ち上げ、複数の地域コーディネーターによる活動の継続化と活性化を目指します。同時に、学校が地域へ飛び出し、地域の“ひと・もの・こと”への積極的にかかわり、地域との連携・協働の強化を一層図ります。

○「市内全校で重点的に取り組む内容」の明確化

安曇野市立のすべての学校で取り組むことを厳選し、「授業改善、健康増進、体を動かす機会の創出など」10項目については、それぞれの学校の創意工夫で実践していきます。

○ 小中一貫教育の市研究指定校

市の活力ある学校の在り方研究の一環として、同一学区内の小・中学校が、学校教育目標や目指す子ども像を共有し、その達成に向けて小・中学校9年間を通じた系統的な教育活動（教育課程）を展開する先導的な研究実践を行う研究指定校を導入します。令和2年度は、明科中学校区の3小中学校を市の研究指定校として、市教委とともに研究実践を行います。

○ 各校の特色ある教育活動の共有化

17小中学校がそれぞれ行っている（予定を含む）特色ある教育活動について互いに理解し学びあい（共有化）、できるところを取り入れて更なる充実を図り、改めて自校の教育への自信と誇りを高めます。

[R2. 4. 1]

令和2年度 安曇野市立小中学校の特色ある教育活動一覧(小学校)				(別紙1)
※本年度取り組み予定				R2.4.1 安曇野市教育委員会
3重点	自ら動く児童生徒	学び続ける教師	地域へ飛び出す学校(地域との連携強化)	
全校の取組	主体的に学びあう学習 野外遊び(小)・自由運動(中) 朝の自主練習(中) メディアとの適切なかわり方啓発 自力登下校 体幹トレーニングの日常化 交通事故Oプロジェクト エコアクション21	学習者ファーストの授業づくり 電子黒板等ICT機器のフル活用 命と人権・平和に関する教育 環境教育	フッ化物洗口や食育 安曇野市歌・あつみの健康体操 副学籍の活用と交流及び共同学習 小・中学校放課後学習室 中学校部活動への支援 幼保小中高、民間施設等との連携・交流	
1	穂高北小 天蚕飼育 天蚕繭のコサージュづくり	教科担任制の導入 教材図書館、行き交う教室 小ボード活用の授業づくり	天蚕林学習 認定こども園との児童交流 小中不登校支援員	
2	穂高南小 コーディネーショントレーニングの実践 運動量を確保した体育の授業	自己研究課題の振り返り・語り合い 感想ボードを活用した学び合える授業公開 コーディネーショントレーニングのモデル授業	学校田・畑 しめ縄づくり 穂高人形に触れる 礫山美術館の利用	
3	穂高西小 学び合いの学習 外遊びの奨励と遊び場の工夫 自力登下校の勧め	学び合いの授業づくり	全校田植え・稲刈り 地域学習講演会 地域の素材を中核とした総合学習 親父の会常念岳登山 西小応援団の組織化	
4	豊科東小 アウトメディアの取組 ユネスコスクール※ コーディネーショントレーニング・体幹づくり	学び合いの授業づくり※ English Day	増沢文庫の活用 学校田活動 光城山・長峰山登山 小中連携教育※	
5	豊科北小 Special English Day ユネスコスクール ドリル学習	職員会前のミニ研修 学び合いの授業づくり(学習評価の研究) English Dayの日常化	保小(中)連携教育※ 運動会でのあつみの健康体操	
6	豊科南小 ユネスコスクール FBC(フラー・ボウ・コンクール) グリーンアドベンチャー	SDGsを意識した生活・総合とESDの推進 チャレンジプロジェクト(特活)の実践 南小非違行為0宣言	グリーン大作戦 学校田の活用とタマネギ農家との交流 花の苗の配布	
7	堀金小 自由進度学習※ 体幹トレーニング ドリル学習※ Special English Day	月1堀金地域教育関係者会議 English Day 小中連携による資質向上研修(三師会)	グリーン大作戦※ 民生委員との懇談 郷土学習・安曇野探検※ 南農高校との交流活動	
8	三郷小 主体性を生かした児童会活動の充実 姉妹学級交流等の異学年交流活動の活性化 あいさつのキャッチボール 根気・協力・気づきを大切にした清掃活動 「三郷っ子」タイムによる体力向上	一人一公開の公開授業により「開かれた教室」へ 年2回全学級授業公開のEnglish Dayを実施 幼保小・小中で「学びのつながり」を 大切にした児童理解	大豆栽培、豆腐づくり、七夕まんじゅうづくり りんご学習、拾ぐん見学 デイサービスセンター、認定こども園との交流 地域の専門家によるクラブ活動	
9	明北小 アウトメディアデー 動きづくりトレーニング(専門家の指導による) 縦割り班活動の充実	Meihoku English Day(毎週水曜日) 地域へ入り込んでの研修	3校引き渡し訓練 小中連携教育 廢線敷ウォーク	
10	明南小 お弁当の日 アウトメディアデー	English Day	小中連携教育 3校引き渡し訓練 カヌー教室 学校田活動 とんがりサボート あつみの健康体操	

「特色ある教育活動」とは、その学校の教職員、児童生徒が、その取り組みのねらいや方法を共通理解した上で、学級・学年・全校等さまざまな集団で、特に力を入れて取り組んでいる教育活動。本一覧は、本年度のグランドデザインに示した3重点ごとに分類したものを。

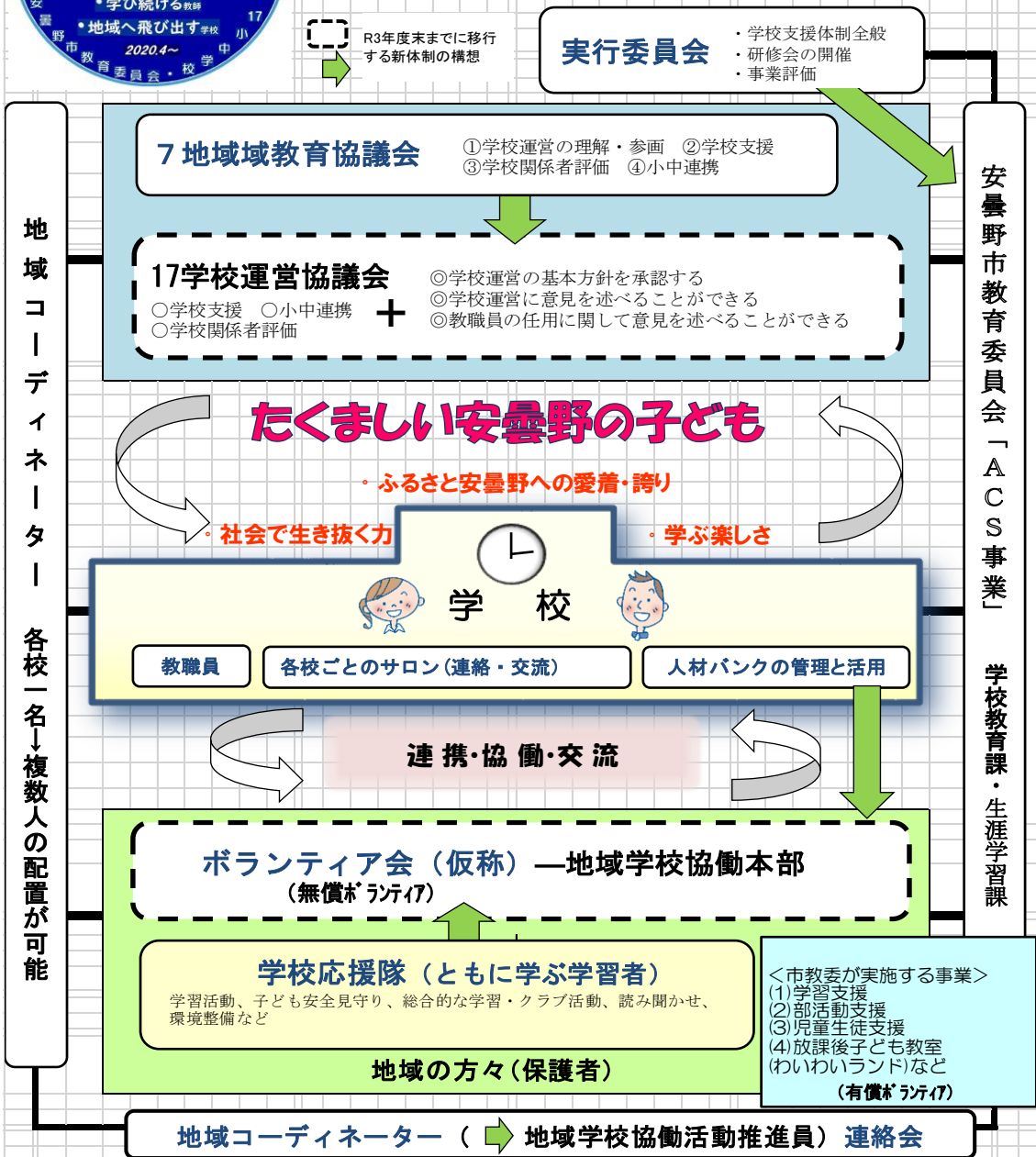
令和2年度 安曇野市立小中学校の特色ある教育活動一覧(中学校)				(別紙2)
※本年度取り組み予定				R2.4.1 安曇野市教育委員会
3重点	自ら動く児童生徒	学び続ける教師	地域へ飛び出す学校(地域との連携強化)	
全校の取組	主体的に学びあう学習 野外遊び(小)・自由運動(中) 朝の自主練習(中) メディアとの適切なかわり方啓発 自力登下校 体幹トレーニングの日常化 交通事故Oプロジェクト エコアクション21	学習者ファーストの授業づくり 電子黒板等ICT機器のフル活用 命と人権・平和に関する教育 環境教育	フッ化物洗口や食育 安曇野市歌・あつみの健康体操 副学籍の活用と交流及び共同学習 小・中学校放課後学習室 中学校部活動への支援 幼保小中高、民間施設等との連携・交流	
①	穂高東中 家庭自主学習の取組	教科指導研究教科会 自由参観週間(校内研修)	礫山美術館清掃 地域と共に行う防災訓練 田舎のモーツァルト音楽祭	
②	穂高西中 全校討論会(ありあけ祭) 礎の時間(体幹トレーニング)	一教科一研究授業 対話的な授業の設定	学校林活動 ありあけタイム 地域と共に行う防災学習 小中不登校支援員	
③	豊科北中 アウトメディアの取組 家庭でのテーマ学習※ ユネスコスクール※ お弁当の日※ スケジュール帳による生活マネジメント※	学び合いの授業づくりと授業公開 NIE研究と授業公開(R2,3)※ 教職員の出勤管理	民生委員と生徒会の交流 放課後学習室 近代美術館との連携 小中連携教育※	
④	豊科南中 南中憲章・伝統宣言 アウトメディアの取組 いのちの学習 ユネスコスクール※	一教科一公開 高校教員の出前授業	明科・豊科高校との教員交流 地域活動の日 福祉体験学習 放課後学習室 地域の自主活動見守り	
⑤	三郷中 いじめ0宣言 思いやりの靴揃え 笑顔の挨拶 三郷中学び合い文化の創造と継承 歌おう週間 互いのよさを認め合う誉めノート アサーティブなコミュニケーション力の育成	学び合いの授業づくりと公開研究 教科を超えたグループ研究	地域への学年合唱発表会 地域と共に学ぶ三郷セルフ・地域学習 地域支援による自主学習教室	
⑥	堀金中 堀中人権宣言 家庭自主学習 語り合い(生徒会)	月1堀金地域教育関係者会議 小中連携(合同教科会・三師会)	常念岳登山 学有林作業 葉草採集、トマト収穫、銀杏拾い 安曇野タイム	
⑦	明科中 明科中人権宣言 アウトメディアデー いのちの学習 お弁当の日 縦割り清掃 体幹トレーニング	教職員の出勤管理 3校合同教科会 高校教員の出前授業 高校への授業参観 複数教科による研究グループでの授業研究	明科キレイにし隊 ホームタウン明科 歌声・挨拶交流会 小中連携教育 孝明館訪問 福祉まつり参加 認定こども園訪問 3校引き渡し訓練 放課後学習室 英語学習支援	

「特色ある教育活動」とは、その学校の教職員、児童生徒が、その取り組みのねらいや方法を共通理解した上で、学級・学年・全校等さまざまな集団で、特に力を入れて取り組んでいる教育活動。本一覧は、本年度のグランドデザインに示した3重点ごとに分類したものを。



令和2年度
安曇野市コミュニティスクール(ACS)
グランドデザイン

安曇野市教育委員会



・関連調整組織 (中学校部活動運営委員会, キャリア教育支援委員会)

[歩み] H21～安曇野市学校支援地域本部事業としてスタートし、H26～安曇野市スクールサポート事業、H29～ACS事業と名称を変え充実を図ってきた。今後、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6」(H29.4施行)による学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクールへの移行を準備が整ったところから行い、R3年度末までにすべての学校での実施を目指す。

ACS グランドデザイン 改訂の趣旨

◎「たくましい安曇野の子ども」を地域とともに育みます

安曇野市教育委員会は、令和2年度も引き続き「たくましい安曇野の子ども」の育成を学校と地域・家庭とが協働して取り組んでまいります。

この「たくましい安曇野の子ども」育成の取り組みは、平成29年度に開催された「総合教育会議」で策定された教育に関する「大綱」の内容を、だれにでもわかりやすく、覚えやすい短い言葉で表したことから始まりました。その後、平成30年12月18日の大綱の改訂で、基本方針の1に「たくましい安曇野の子ども」の育成を位置づけました。

そして、いつもこのことを認識していただけるようステッカーも考案しました。さらに本年度から重点事項を盛り込んだステッカーにリニューアルしました。

1 学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクールへの移行に向けて

平成29年4月にスタートした安曇野市コミュニティスクール（ACS）をより柔軟で持続可能なものにし、一層活性化させていくため、令和4年度までに「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6」（H29.4施行）による学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクールへと移行したいと考えています。次の2、3は、そのための準備です。ご理解とご協力をお願いします。

2 学校ごとのボランティア会（仮称）の立ち上げを

「学校と地域」がより主体性をもってコミュニティスクール活動ができるように、令和元年9月に、これまで市教委が一括して管理していた「安曇野市人材バンク名簿」を最新のものに更新したうえで各学校へ送付させていただきました。

学校と地域コーディネーターは、この名簿を学校応援隊名簿と合わせて管理するとともに、これをもとに学校ごとのボランティア会（仮称）を組織し、活動場所の確保や計画の立案に、可能な限り本年度中に着手してください。この取り組みには事務局も当然かかわりますが、地域コーディネーターの方々とは、今まで以上に学校との緊密な連携をお願いしてまいります。

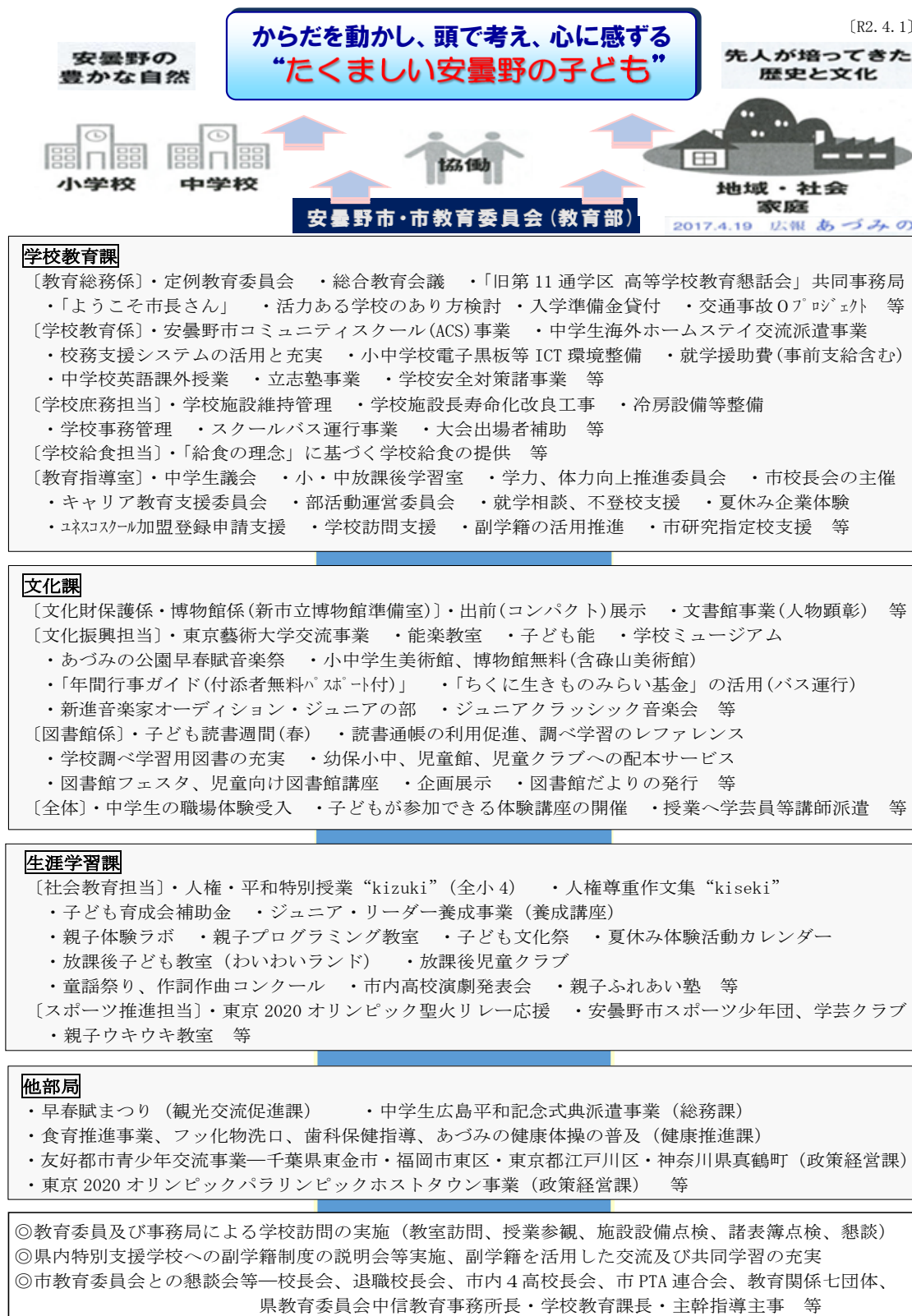
なお、名簿に記載された方々が、少なくとも年に1回は学校へ足を運んでいただくよう、行事にお招きするなど相談しながら進めてください。

3 地域コーディネーターの複数配置が可能に

これまで、17小中学校に1名ずつ配置していた地域コーディネーターを、各校に複数人配置が可能となりました。平成2年度から人選をすすめ配置していきます。

[R2.4.1]

令和2年度 安曇野市教育委員会(教育部)各課の取組



令和2年度 教育委員協議会名簿

教育委員協議会委員

教育長	橋渡 勝也
教育委員（教育長職務代理者）	唐木 博夫
教育委員	須澤 真広
教育委員	横内理恵子
教育委員	二村美智子

事務局

教育部長	平林 洋一
学校教育課長	沖 雅彦

安曇野市 教育・学校の将来構想

“たくましい安曇野の子ども”を目指す
安曇野市立小・中学校の将来構想案（概要版）

R3.3.9
安曇野市総合教育会議
資料1

- 郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現
- 行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力ある学校の創造

期待する「これからの学校」の姿

- ① 独自の特色ある教育や地域活動を活発に行う学校
- ② 地域との協働による真に開かれた学校
- ③ 切磋琢磨し個性や能力を高める学校
- ④ 郷土への愛着や誇りを高める学校
- ⑤ 小・中の学びが連続的で発展性と魅力がある学校

目指す「活力ある学校」の姿

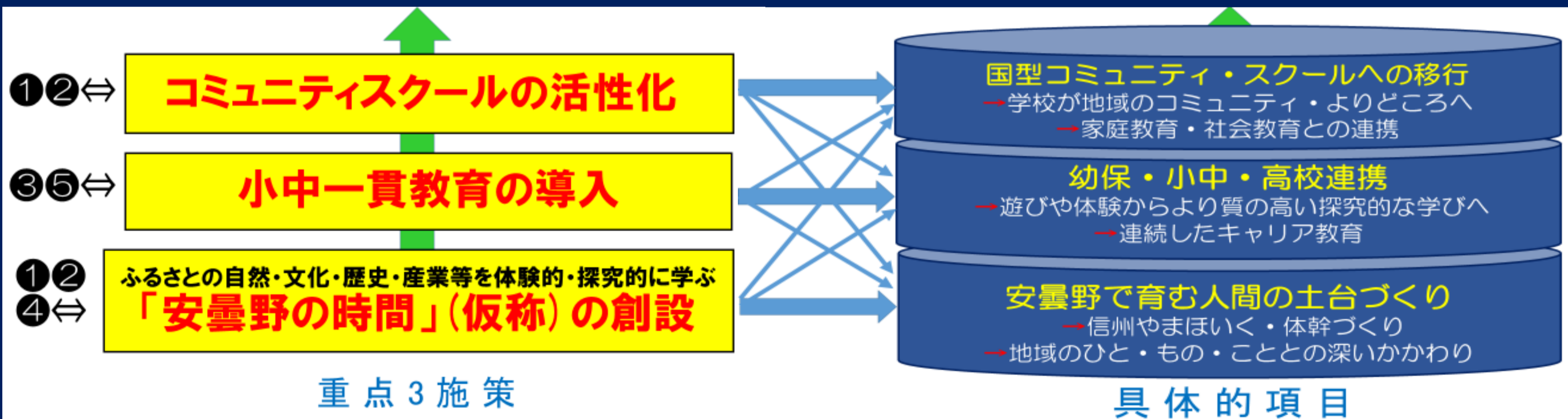
安曇野市が目指す子ども像

からだを動かし 頭で考え 心に感ずる
たくましい安曇野の子ども

学校教育グランドデザインのステッカー
(R2.4.1改訂)



*安曇野市出身の文芸評論家・作家・教育者 臼井吉見さんの言葉



令和3年度 安曇野市学校教育グランドデザイン(案)



からだを動かし、頭で考え、心に感ずる*
“たくましい安曇野の子ども”

未来を担う
安曇野市の宝

*文芸評論家・作家 臼井吉見（1905-1987 安曇野市）の講演「中学生諸君に望む」（1967）から

〈教育理念〉 子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り育むまちを築きます。 安曇野市教育大綱（H30.12.18 総合教育会議で決定）

— 願う 児童生徒、教師、学校の姿 —

自ら動く児童生徒

- ・自ら判断し行動する児童生徒
- ・自信をもって自己を表出する児童生徒

学び続ける教師

- ・豊かな発想でのびのびと自らを高める教師
- ・明るく元気に、笑顔で子どもの前に立つ教師

地域へ飛び出す—地域との連携を強める学校

- ・地域の“ひと・もの・こと”と積極的なかわりを持ち、特色ある豊かな学習を展開する学校

家庭・地域

幼稚園・認定こども園など

県教育委員会・中信教育事務所

校長会・教頭会・教育会・退職校長会・県立特別支援学校・市内県立四高校長会・市PTA連合会・教育関係七団体

市内全校で取り組む内容

- (1) 電子黒板や一人1台端末を活用した授業づくり ICT機器を活用した主体的に学ぶ学習の展開
- (2) 健康増進、体を動かす機会の創出 「手作りお弁当の日」の実施、自力登下校の促進
- (3) 郷土への愛着や誇りの醸成 地域学習の充実、安曇野市歌・あづみの健康体操の普及
- (4) 共生社会への基盤づくり 副学籍の活用と交流及び共同学習の推進
- (5) 連携と交流 幼保小中高の連携強化、民間施設との関係強化、ボランティア会の立ち上げ
- (6) 健全育成 「情報機器の運用規定やルールづくり」と心身の健康被害防止啓発
- (7) 命・人権の尊重 新型コロナウイルス感染症対策と人権教育の推進、交通事故〇〇以外の強化

市研究指定校

- (1) 「明科中学校区における小中一貫教育」（2年次）…明北小・明南小・明科中
- (2) 「ICT機器を積極的に活用した授業づくり」（新規）…豊科北小・穂高北小・穂高東中
- (3) 「国型コミュニティ・スクール移行に向けた体制づくり」（新規）…堀金小・堀金中

“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小中学校の将来構想(案)

重点① コミュニティスクールの活性化 ② 小中一貫教育の導入 ③ 「あづみの安曇野の時間(仮称)」の創設

※令和3年度内に策定予定

令和3年度 学校教育グランドデザイン 改訂の趣旨

○ “たくましい安曇野の子ども”を目指す児童生徒、教師、学校の願う姿

1 自ら動く児童生徒

全ての小中学校の普通教室に電子黒板が設置され、国のGIGAスクール構想によるネットワーク環境の整備と一人1台端末が配備されます。これらICT機器を積極的に活用した授業展開が期待されています。それらを通して、自ら判断し行動する児童生徒、自信をもって自己を表出する児童生徒に育てたいと願っています。

2 学び続ける教師

自ら動く児童生徒を育むために、教師自身が、豊かな発想でのびのびと自らを高めようとする姿勢を持って教育活動に打ち込み、明るく元気に、笑顔で子どもの前に立つ教師であって欲しいと願っています。

3 地域へ飛び出す-地域との連携を強める学校

これまで取り組んできた安曇野市コミュニティスクールを、さらに充実・発展させ、地域住民とともにつくる真に開かれた学校として、令和4年度から国型コミュニティ・スクールへ移行し、地域の“ひと・もの・こと”と積極的なかかわりを持ち、特色ある豊かな学習を展開する学校を目指します。

○ 「市内全校で重点的に取り組む内容」の一層の明確化、重点化

安曇野市立のすべての学校で取り組むことを厳選し、一層の明確化、重点化をしました。

○ 市研究指定校として3分野を設定

本年度は、「小中一貫教育」(2年次)、「ICT機器を活用した授業づくり」(新規)、「国型コミュニティ・スクール移行に向けた体制づくり」(新規)の3分野について、市教委とともに先導的な研究実践を行います。

○ “たくましい安曇野の子ども”を目指す小中学校の将来構想の実現に向けて

安曇野市立17小中学校が、今後も更なる活力ある学校になるため、①コミュニティスクールの活性化、②小中一貫教育の導入、③「^{あづみの}安曇野の時間(仮称)」の創設の3つを重点に取り組んでいきます。③については、安曇野の自然や文化、歴史、産業等について、体験的・探究的に学んでいる各校の特色ある教育活動(地域学習)を、小中一貫教育の視点で整理・体系化し一層の充実を図っていきたいと考えています。

この将来構想は、令和3年度内に策定し公表を予定しています。

[R3.3.2]

G I G A スクール構想の進捗状況

安曇野市教育委員会

■ I C T を活用した授業づくりのための取組み

(1) 安曇野市 ICT 教育推進委員会の取組み

委員 9 名…市校長会 1、市教頭会 2、教職員（小中各 3） 事務局…学校教育課
委員会で取り組んでいる内容

- ・ 端末使用の運用規定や活用ルールの検討と提言
- ・ 端末と電子黒板の有機的に組み合わせ活かした授業改善の提言

★ 端末使用の取扱い規定と活用ルールのガイドラインを 3 月末までに策定する。
教職員、児童生徒、保護者向けの作成を検討している。

(2) I C T を積極的に活用した授業づくり研究指定校を 3 校指定
豊科北小学校、穂高北小学校、穂高東中学校

(3) 令和 2 年度教職員対象の端末操作研修

2 月～3 月 入門編…各校 1.5 時間、発展編…各校 3 時間程度
なお、令和 3 年度も各校 3 時間程度の研修を予定している。

(4) 市 I C T 活用計画の策定

- ・ I C T を活用した学習イメージ【主体的・対話的学習、協働学習の充実】

例1) 個人の考えを電子黒板に映し出したり、データを共有したりする

例2) インターネットで情報を収集する

例3) 写真や動画を撮影し、レポートにまとめて発表する。

例4) 個人の考えをリアルタイムで共有してグループでレポートを作成する

- ・ 学習用端末の活用目標（案）

現状	令和 3 年度	令和 4 年度
各クラス 週 1 回～月 1 回程度	各クラス 1 日 1～2 回以上	各クラス 1 日 2～3 回以上

- ・ 活用状況を踏まえたフォローアップ

例1) 各年度終了後、各学校の活用状況に応じた活用研修を実施

例2) 各年度において新任・異動教員対象の活用研修を実施

- ・ 臨時休校の期間中等におけるオンラインによる学習支援のイメージ

例 1) Web 会議システムを利用した朝会等の実施

例 2) 学習支援ソフトを使って課題・宿題の配信、回収の実施

★ 整備した端末の利用を基本とする。

G I G A スクール構想の進捗状況

安曇野市教育委員会

	ネットワーク整備	端末整備	研修・支援事業
令和2年 4月			
5月			
6月	<p>6月市議会：補正予算承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネットワーク整備 … 236,521千円（国庫補助 89,688千円、市債79,100千円） ○ 1人1台端末購入 … 小学校(高学年分)・中学校216,000千円（4,800台） 		
7月	◇ 7/30 入札 (市立小中学校パソコン 利用環境構築業務委託)	◇ 購入機種決定(小中全学年でChromebookを使用) ※県内の過半数の市町村でChromebookを採用	
8月	◇ 8/5 契約 (事業期間：R2/8/5～R3/3/5)		
9月	◇ 環境構築業務開始	◇ 9/16 入札①(小・中学校分の計4,800台を一括) ◇ 9/18 仮契約①(●議決案件) 小学校端末購入(2,250台分) ← 高学年分 中学校端末購入(2,550台分) 計4,800台	◇ 9/16 入札(学習支援ソフト導入) ◇ 9/23 契約(学習支援ソフト導入)
	<p>9月市議会：補正予算承認・契約議案議決</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネットワーク整備 … 事業費変更なし(国補 13,104千円増、市債 11,500千円増) ○ 1人1台端末購入 … 小学校9,630千円増(214台)(国補 6,930千円増) (一部4年生分と予備機分を追加購入) ● 1人1台端末 4,800台購入契約(6月補正計上分)の承認 		◇ 教職員への研修方法の検討 ◇ GIGAスクール構想の追加支援メニュー活用検討 →12月議会に補正予算要求へ
10月			◇ 小学校電子黒板納品・操作研修
11月		◇ 11/4 入札② ◇ 11/9 契約② 端末購入(9月補正追加分214台)	◇ ICT推進委員会の設立準備 (構成：学校教職員、学校教育課職員)
12月	<p>12月市議会：補正予算承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スクールサポーター委託(研修費) … 9,074千円(国補 4,536千円) ○ 遠隔通信機器購入(WEBカメラ170台) … 496千円(国補 247千円) ○ ネット回線使用料 … 500千円 ○ 1人1台端末(小学校低学年分2,400台：R3度購入分)の債務負担行為 		
		◇ 12/9 納品② 端末購入(9月補正追加分214台)	◇ 12/28 学習支援ソフト納品
令和3年 1月			◇ 教職員研修と日程の調整 ◇ 1/19 契約(WEBカメラ購入) ◇ 1/25 ICT推進委員会① ◇ 1/26 入札(GIGAスクールサポーター委託)
2月		◇ 2/5 入札③(小学校低学年分 端末購入 2,400台) ◇ 2/8 仮契約③(●議決案件)	◇ 2/1 契約(GIGAスクールサポーター委託)
	<p>3月市議会：契約議案議決(2/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1人1台端末 小学校低学年分2,400台購入(12月債務負担行為分) 		◇ WEBカメラ購入(2/24 納品) ◇ 2/25 ICT推進委員会② ◇ 研修(2～3月) ・ Google研修(キックスタートプログラム) ・ 学校毎の研修(入門編・発展編)
		◇ 2/25～26 納品① 小・中学校端末(4,800台)	
3月	◇ 3/5 環境構築業務完了 ※普通教室と一部の特別教室で無線化完了		◇ 3/11 ICT推進委員会③
4月			
5月		◇ 5月 納品③ 小学校低学年分端末購入(2,400台)	

交通事故ゼロプロジェクトについて

学校教育課

1 趣旨

2月10日（水）、下校途中の市内小学生が大けがを負う交通事故が発生した。子どもたちの命を守るために、日頃から交通安全への指導を行ってきたものの、年度末を迎えるこの時期に、改めて市内の全小中学校で交通安全教育を実施して、子どもたちや教職員の交通安全に対する意識を高め、このような悲しい交通事故を防いでいきたい。

また併せて、「交通事故ゼロプロジェクト」に掲げている3項目の周知を図ることにより、保護者に対しても安全運転に注意するような啓発を行っていく。

2 実施内容（各校共通）

- (1) 登校時と下校時の異なる通学路を通る児童・生徒の把握をする。
- (2) 一人ひとりが、登下校及びその他の理由により使う通学路の要注意箇所（危険箇所）を確認できるようにする。
- (3) 改めて、1 止まる・見る・待つ の徹底 2 ヘルメットのおごひもを締める 3 休日・登下校時や送迎時の注意 について、児童・生徒、保護者、教職員に周知する。

3 実施状況

(1) 実施時期

2月中旬から3月上旬

(2) 実施方法（主なものを集計、複数回答あり）

- ①登校時と下校時の異なる通学路を通る児童・生徒の把握について
 - ・調査（アンケート、聞き取り、ワークシート）の実施 9校
 - ・学級での指導 5校
 - ・調査票の全校集約および内容の確認 3校

- ②通学路の要注意箇所（危険箇所）の確認について
 - ・地区子ども会（地区生徒会）で実施 9校
 - ・学級指導 6校
 - ・「通学路安全マップ」を活用して確認 4校
 - ・職員やPTA役員による街頭指導 2校
 - ・地域連携防災訓練時に確認 1校
 - ・学校・学年だよりで保護者へ呼びかけ 1校

③ 1止まる・見る・待つ の徹底 2ヘルメットのおごひもを締める 3休日・登下校時や送迎時の注意 の再周知

- ・学校だより、学年だより等で呼びかけ、ホームページ掲載 全校
- ・学級指導 6校
- ・職員やPTA役員による街頭指導 2校
- ・全校放送等を活用した全校一斉指導
- ・生徒会活動の一環として、生徒からの呼びかけ
- ・各自で事故にあわないための注意点のまとめ
- ・日頃から落ち着いた日常生活を送れるような指導

(3) 実施してみて改めて気づいたこと

①児童生徒にかかわって

- ・登下校時に異なる通学路を使っている児童生徒が一定数いる。
- ・部活動終了後に複数で帰れるようにするために、登校と下校で通る道を変えている生徒がいる。
- ・毎日のことで慣れが感じられ、通学路の危険箇所について意識の低下がみられる。

②教職員の意識について

- ・職員自身も子どもの通学路の危険箇所について知らないことがあった。
- ・異なる通学路を通る児童に対しての指導が改めて必要だと感じた。
- ・通塾等により登校時と異なったコースで下校する児童を全て把握できていなかったことに気付いた。
- ・曜日によって異なる場合も多く、多岐にわたり通学路の確認の必要を感じた。

③今後の指導について

- ・下校時に、必ず一言、「交差点での止まる・見る・待つ」の声かけをする。
- ・通学路の要注意箇所危険個所の確認を長期休み前に設けることを検討したい。
- ・交通マナーについては、「学校自己評価」の結果から改善の傾向にある。今後とも生徒の活動として、“生徒自身による呼びかけ”を位置付けたい。

④その他

- ・通学路の要注意箇所（危険箇所）があることを再確認できた（複数）。例えば、壁あるT字路やミラーの見にくい交差点などで、車の確認がしにくい箇所など。
- ・大人からの一方的な指導だけではなく、子ども同士注意し合うことが大切である。
- ・横断の際に手を挙げる行為は、渡る意志を示す行為であることを再確認した。
- ・PTA校外指導部の方から、各地区での危険箇所を具体的にあげていただき、地区生徒会で担当職員から指導を行うことができた。
- ・送迎時の留意点は、保護者の意識も薄れがちになっていたのもので、この機会に安全への意識を高めることができた。

4 今後に向けて

- ・今回の実施内容を、新年度の交通安全指導に位置付けていく。
- ・交通安全の意識が途切れないよう、年間を通して継続的に取り組んでいく。